

高知県埋蔵文化財センター年報 2

1992年度

1993

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター



柳田遺跡出土琴柱



ハナノシロ城跡航空写真

序

平成3年度に設立された当埋蔵文化財センターも2年目となりました。平成4年度も前年度に加えて事業量は増加しており、これに対して調査員も増員され、調査体制の充実が図られました。また、施設面においても新たに高知県立埋蔵文化財センターの整理・収蔵施設の建設が着手され、その拡充が進められています。

しかしながら、県下における開発の波は大きく、今後も発掘調査事業は増加の傾向にあります。このような状況の中で埋蔵文化財センターの役割も大きくなり、さらなる発展が望まれているところです。

また、発掘調査事業の他にも普及・啓蒙事業の一環として、発掘調査に伴う現地説明会の開催や高知県立歴史民俗資料館との共催による企画展等を行い、埋蔵文化財の保護、保存の推進に努めてまいりました。

設立2年目であり十分な成果を残すには至りませんでした。今後も開発と埋蔵文化財保護の調和を図るべく、発掘調査事業、普及・啓蒙事業ともに推し進めていく所存ですので、皆様のさらなるご指導、ご援助をお願いするところです。

最後になりましたが、本書は平成4年度の事業概要をまとめたものであり、事業を進めるうえでご協力を頂いた関係各位にお礼申し上げますとともに、当センターの事業への理解を深めて頂くことにより、埋蔵文化財保護の一助となれば幸いです。

平成5年3月

財団法人高知県文化財団

埋蔵文化財センター

所長 小橋 一 民

目次

序

I	財団法人高知県文化財団	1
	1. 財団法人高知県文化財団の概要	
	2. 財団法人高知県文化財団の組織	
II	埋蔵文化財センター	3
	1. 埋蔵文化財センターの概要	
	2. 埋蔵文化財センターの組織	
III	年間事業の概要	5
	1. 発掘調査事業	
	2. 発掘調査報告書刊行・資料管理事業	
	3. 普及・啓蒙事業	
	4. 研修事業	
IV	発掘調査概要報告	15
V	条例・規則	44

例言

1. 本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成4年度(1992)事業の概要をまとめたものである。
2. 発掘調査については、当センターの受託事業、派遣事業以外にも県教委及び市町村教委で実施した調査も県下の状況を把握するために収録した。
3. IV. 発掘調査概要報告については、各担当調査員が執筆した。また、その他の執筆、編集は曾我貴行、森田尚宏が取りまとめた。

I 財団法人高知県文化財団

1. 財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといった県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代さう勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特にその推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの睿智、力を出し合い、一致協力してゆくことがなによりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して総合的、体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を生かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる、柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

(2) 事業内容

- 1) 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- 2) 教育、学術及び文化の国際交流事業
- 3) 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- 4) 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- 5) その他文化振興に関する事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 事務局所在地

高知県南同市岡豊町八幡字岡豊山 1099-1 高知県立歴史民俗資料館内

2. 財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

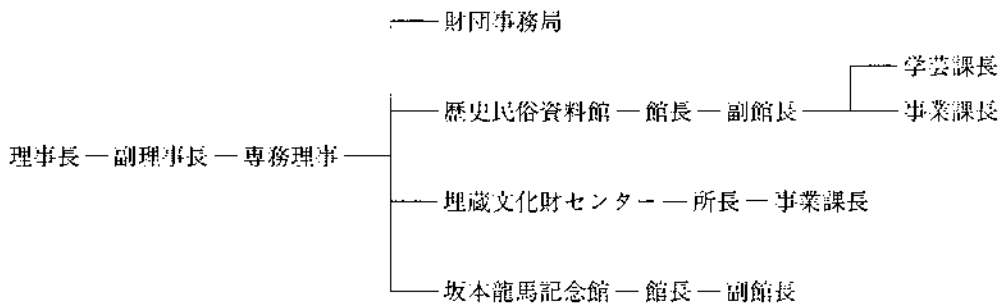
1) 理事会役員

理事長1名 副理事長2名 専務理事1名 理事6名 監事2名

2) 事務局

総務部長（専務理事）－総務課長（歴史民俗資料館副館長）－事務職員

3) 財団組織図



(2) 財団役員

役職名	氏名	備考
理事長	中内 力	前高知県知事
副理事長	西森 久米太郎	高知県教育長
副理事長	濱田 耕一	四国銀行頭取
専務理事	小橋 一民	高知県教育委員会事務局参事、埋蔵文化財センター所長
理事	横山 龍雄	高知市長
理事	筒井 直和	吾北村長
理事	橋井 昭六	高知新聞社社長
理事	吉村 眞一	高知県商工会議所連合会会頭
理事	清水 泉	高知銀行頭取
理事	平谷 英明	高知県総務部長
監事	木下 武良	高知県教育次長
監事	森田 毅	高知市収入役

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うとともに、埋蔵文化財愛護思想の普及啓蒙を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

1) 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

2) 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の整理及び保管を行う。

3) 埋蔵文化財の研究・普及啓蒙

埋蔵文化財について調査研究を行うとともに、その成果をもとに出土遺物の公開展示現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓蒙を図る。

4) 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

5) 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

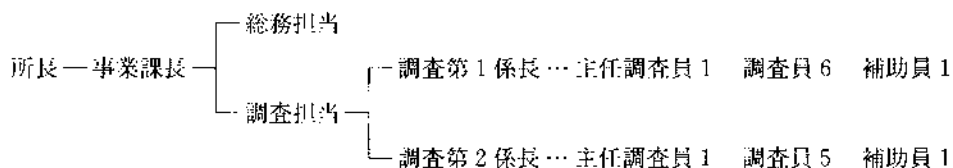
平成3年4月1日

(4) センター所在地

高知県南国市篠原南泉 1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) センター組織



(2) センター職員

職 名		氏 名	備 考	
所 長		小 橋 一 民	(財)高知県文化財団専務理事	
事 業 課 長		山 崎 浩	高知県教育委員会文化振興課主監	
総務担当	事務職員	三 浦 康 寛	高知県教育委員会文化振興課主事	
	非常勤	武 田 幸 子	嘱託職員	
調査担当	調 査 第 一 係	係 長	山 本 哲 也	高知県教育委員会文化振興課主幹
		主任調査員	門 脇 隆	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		調 査 員	前 田 光 雄	高知県教育委員会文化振興課主事
		同	松 田 直 則	高知県教育委員会文化振興課主事
		同	寺 川 嗣	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		同	近 森 泰 子	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		同	曾 我 貴 行	高知県文化財団職員
		同	藤 方 正 治	高知県文化財団職員
		調査補助員	武 吉 眞 裕	嘱託職員
	調 査 第 二 係	係 長	森 田 尚 宏	高知県教育委員会文化振興課主幹
		主任調査員	廣 田 佳 久	高知県教育委員会文化振興課主幹
		調 査 員	江 戸 秀 輝	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		同	山 崎 正 明	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		同	松 村 信 博	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
同		坂 本 憲 昭	高知県文化財団職員	
	同	吉 成 承 三	高知県文化財団職員	
	調査補助員	竹 村 三 菜	嘱託職員	

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

本年度は、埋蔵文化財センター開設2年目であり、調査員の増員も行われたが、昨年度に引き続き開発に伴う緊急調査が主体を占めており、今後も増加する傾向にある。埋蔵文化財センターの事業としては、受託事業である発掘調査と調査員派遣による発掘調査が行われたが、県内市町村における専門職員が1町を除き皆無であるところから、調査員派遣による発掘調査の占める割合が高く、今後増加する大規模開発に伴う受託事業を考えれば、市町村における専門職員の配置に向けての方策が必要とされるであろう。

また、事業によっては県教育委員会からの職員の派遣を受けて行われた調査もあり、県内における発掘調査全般について、その概要を以下にまとめる。

(1) 受託事業

平成4年度における受託事業は11件であり、県教育委員会（建設省からの再受託）、道路公団、県及び市町村、民間からの受託であった。11件中本調査は、大規模調査である中村宿毛道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を中心に6件であり、調査面積は合計約15,000㎡であった。

中村宿毛道路関連遺跡の発掘調査としては、ハナノシロ城跡、江ノ古城跡、西ノ谷遺跡の調査が行われ、平成5年度以降も継続的に計画地内の埋蔵文化財調査が行われる予定である。また、県からの委託により秦泉寺廃寺跡、峰ノ上遺跡の2件、春野町からの委託では南浦遺跡、民間からの委託では柳田遺跡、金地遺跡の2件の調査が行われた。

試掘・確認調査は5件であり、道路公団からの委託により栄エ田遺跡、県からの委託によりバーガ森北斜面遺跡、市町村の委託では中村市から国見遺跡、高知市から柳田遺跡の試掘調査が行われ、学術調査としては、池川町からの委託により坂本大平岩陰遺跡の確認調査が行われた。調査面積は合計約500㎡であった。また、平成3年度に発掘調査が行われた稗地遺跡の整理作業及び報告書作成が県の委託により実施された。

(2) 調査員派遣事業

調査員派遣による発掘調査は23件であり、各種開発に伴う緊急調査、国庫補助による学術調査、試掘調査等、多岐にわたっている。

本調査は6件であり、何れも圃場整備事業関連に伴う調査であった。調査面積は合計約10,125㎡と多く、調査面積に比して期間的にも、経費的にも厳しい条件であった。派遣は次のとおりである。

土佐山田町 — 林田シタノヂ遺跡 野市町 — 本村遺跡 佐川町 — 岩井口遺跡
 土佐山田町 — 久次遺跡カリガヤノ地区 春野町 — 仁ノ遺跡 大正町 — 木屋ヶ内遺跡

圃場整備事業及び開発等に伴う試掘調査は8件、調査面積は合計約1,430㎡であり、派遣は次のとおりである。

南国市 — 土佐国分寺跡 中村市 — 平野遺跡 十和村 — 川口新階遺跡
 ♫ — 東崎遺跡 土佐清水市 — ミズクレ遺跡 三原村 — 岡の前遺跡
 ♫ — ハザマダ遺跡 春野町 — 西畑遺跡

学術・確認調査は5件、調査面積は合計約2,958㎡であり、派遣は次のとおりである。

土佐山田町 — 伏原大塚古墳 春野町 — 芳原城跡 本山町 — 松ノ木遺跡

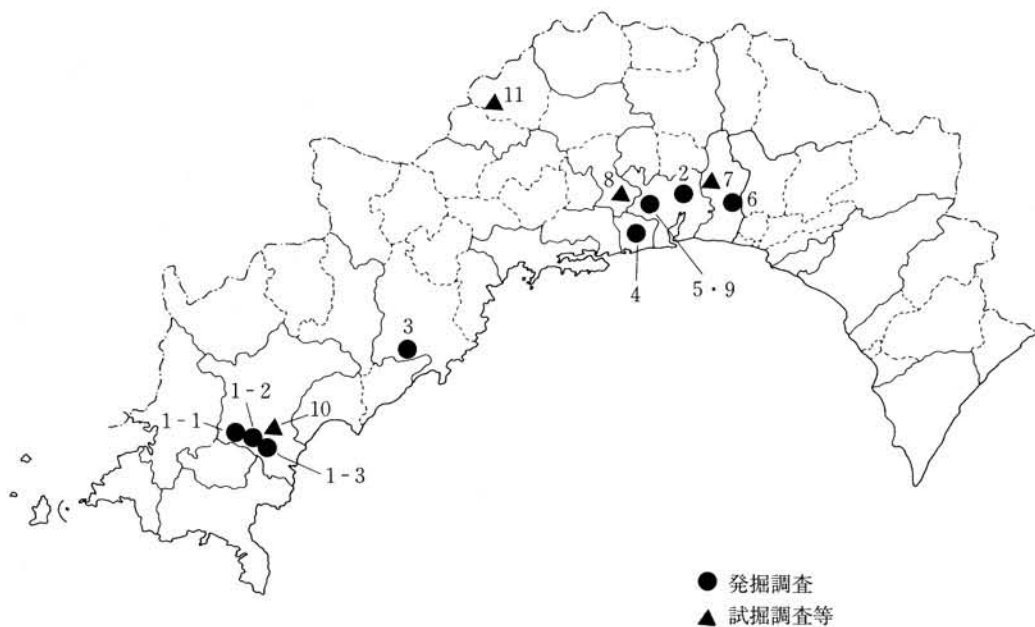
大月町 — ムクリ山遺跡・竜ヶ追遺跡

その他、県教育委員会調査員による調査が3件行われており、調査面積は合計約143㎡であった。また、土佐山田町教育委員会によって圃場整備事業に伴う試掘調査1件、調査面積328㎡が行われた。

高知市 — 籠ノ谷遺跡 春野町 — 奥谷遺跡 東津野村 — 高野遺跡
 土佐山田町 — 新改西部遺跡群

平成4年度 受託発掘調査

番号	遺跡名	調査略号	所在地	時代	種別	調査面積 (m ²)	調査期間	原因	委託者	調査主体
1-1	ハナノシロ城跡	92-10 NSM	中村市江ノ村 ハナノシロ	中世	城跡	3,500	H4.5月 ～10月	高規格道路建設	建設者(県教委)	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
1-2	江ノ古城跡	92-11 NSE	中村市江ノ村 エノジョウ	中世	城跡	1,400	H4.5月 ～10月	高規格道路建設	建設者(県教委)	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
1-3	西ノ谷遺跡	92-12 NSN	中村市江ノ村 西ノ谷	弥生～ 古墳	散布地	1,350	H4.9月 ～12月	高規格道路建設	建設者(県教委)	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
2	奈泉寺廃寺跡	92-16 KJ	高知市中奈泉 寺	古代	寺院跡	160	H4.7月	県道拡幅改良 工事	高知県	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
3	峠ノ上遺跡	92-21 KM	高岡郡窪川町 峠ノ上	縄文・ 中世	散布地	1,500	H4.7月 ～8月	県営圃場整備 事業	高知県	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
4	南浦遺跡	92-5 HM	吾川郡春野町 東浦木	弥生～ 中世	散布地	690	H4.5月 ～6月	病院建設	春野町	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
5	柳田遺跡	92-1 KY	高知市朝倉字 柳田	縄文～ 古墳	集落跡	4,540	H4.8月 ～12月	大規模店舗建 設	民間業者	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
6	金地遺跡	92-14 NK	南国市全地北 龍西	弥生～ 古墳	集落跡	800	H4.5月 ～7月	工場建設	民間業者	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
7	栄工田遺跡	92-34 SE	南国市園芸町 定林寺	縄文～ 古代	散布地	200	H5.1月 ～3月	四国横断自動 車道建設(試 掘調査)	日本道路公 団	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
8	バーガ森林北 面遺跡	92-32 JB	吾川郡伊野町 バーガ森	弥生	集落跡	60	H5.1月 ～2月	広域農道建設 (試掘調査)	高知県	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
9	柳田遺跡	92-1 KY	高知市朝倉字 柳田	縄文～ 古代	集落跡	255	H4.4月 ～5月	確認調査	高知市	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
10	岡見遺跡	92-33 KN	中村市岡見字 豚場	縄文・ 近世	散布地	200	H5.1月	学校施設建設	中村市	高知県文化財団 埋蔵文化財センター
11	坂本岩陰遺跡	92-19 IS	吾川郡池川町 坂本	縄文・ 中世	散布地	8	H4.9月	確認調査	池川町	高知県文化財団 埋蔵文化財センター



平成4年度 受託発掘調査位置図



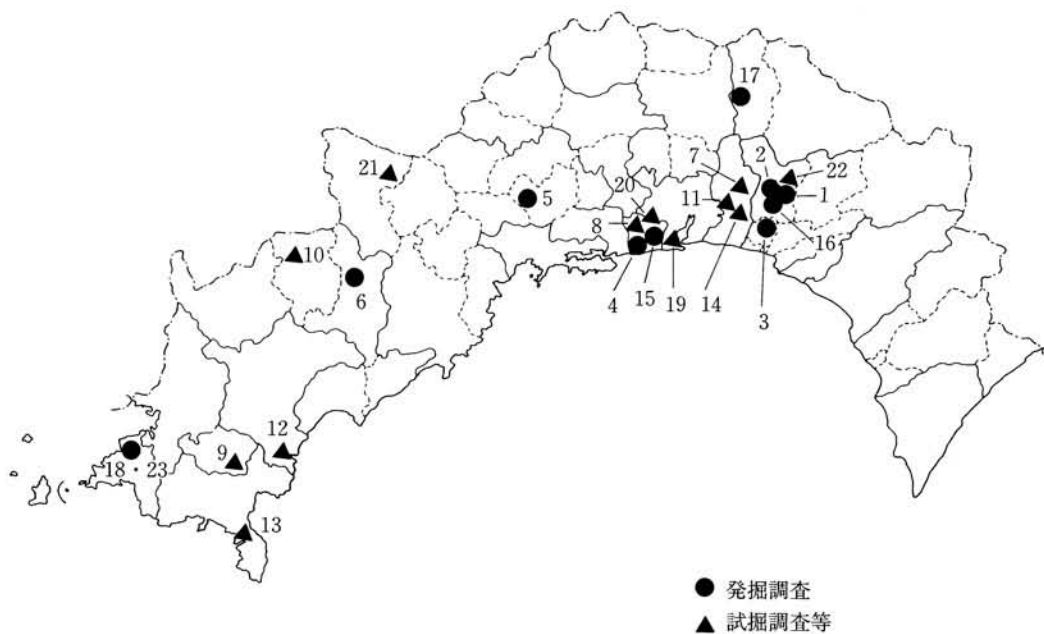
柳田遺跡



ハナノシロ城跡

平成4年度 調査員派遣発掘調査他

番号	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積 (m ²)	調査期間	原因	原因者	調査主体
1	林田シメノブ遺跡	92-20 YG	香美郡土佐山田町林田	縄文・中世	散布地	2,700	H 4.10月～11月	県営圃場整備事業	高知県	土佐山田町教育委員会
2	久次遺跡カマガヤノ地区	92-30 YHK	香美郡土佐山田町久次	弥生～中世	集落跡	2,000	H 4.11月～12月	県営圃場整備事業	高知県	土佐山田町教育委員会
3	本村遺跡	92-9 NH	香美郡野市町本村	弥生・中世	集落跡	1,300	H 4.5月～7月	団体営圃場整備事業	野市町	野市町教育委員会
4	仁ノ遺跡	92-7 HN	吾川郡春野町仁ノ	弥生～古墳	散布地	400	H 4.5月	個人土地改良事業	春野町	春野町教育委員会
5	岩井口遺跡	92-24 NI	高岡郡佐川町斗賀野	弥生～中世	集落跡	3,600	H 4.10月～12月	県営圃場整備事業	高知県	佐川町教育委員会
6	木屋ヶ内遺跡	92-22 TK	幡多郡大正町木屋ヶ内	縄文・中世	散布地	125	H 4.9月	村営圃場整備事業	大正町	大正町教育委員会
7	ハザマダ遺跡	92-29 HZ	南国市横田	弥生～中世	散布地	113	H 4.11月～12月	県営圃場整備事業(試掘調査)	高知県	南国市教育委員会
8	西畑遺跡	92-15 HS	吾川郡春野町西畑	弥生・中世	散布地	750	H 4.5月	県営圃場整備事業(試掘調査)	高知県	春野町教育委員会
9	岡の前遺跡	92-31 MO	幡多郡三原村岡の前	縄文	散布地	138	H 4.11月	団体営圃場整備事業(試掘調査)	三原村	三原村教育委員会
10	川口新路遺跡	92-3 TS	幡多郡土和村川口	縄文	散布地	104	H 4.4月	学校施設建設(試掘調査)	土和村	土和村教育委員会
11	東崎遺跡	92-28 NH	南国市東崎	弥生～古墳	集落跡	10	H 4.10月	学校施設建設(試掘調査)	高知県	高知県教育委員会
12	平野遺跡	92-28 HJ	中村市平野	縄文	散布地	60	H 4.10月	県道改良工事(試掘調査)	高知県	中村市教育委員会
13	ミスケレ遺跡	92-23 TM	土佐清水市旭町	縄文	散布地	35	H 4.10月	都市計画開発(試掘調査)	土佐清水市	土佐清水市教育委員会
14	土佐河分寺跡	92-4 KB 92-25 KH	南国市河分	古代～近世	寺院跡	220	H 4.4月～5月、11月	座裡・参道改修(確認調査)	土佐河分寺	南国市教育委員会
15	芳原城跡	92-2 YC	吾川郡春野町芳原	中世	城跡	1,500	H 4.10月～12月	学術調査	春野町	春野町教育委員会
16	伏原大塚古墳	92-6 YD	香美郡土佐山田町橋目	古墳	古墳	300	H 4.7月～H 5.1月	学術調査	土佐山田町	土佐山田町教育委員会
17	松ノ木遺跡	92-27 MM	長岡郡本山町寺家	縄文～中世	集落跡	550	H 4.19月～H 5.3月	学術調査	本山町	本山町教育委員会
18	ムクリ山遺跡	92-18 OM	幡多郡大月町芳ヶ沢	弥生	集落跡	600	H 4.8月	学術調査	大月町	大月町教育委員会
19	箒ノ谷遺跡	92-8 KK	高知市横浜	古代～中世	散布地	100	H 4.5月	県道建設工事(試掘調査)	高知県	高知県教育委員会
20	奥谷遺跡	92-17 HO	吾川郡春野町奥谷	弥生	散布地	35	H 4.8月	市道建設工事(試掘調査)	春野町	春野町教育委員会
21	高野遺跡	92-13 HT	高岡郡東津野村高野	縄文	散布地	8	H 4.10月	農道建設工事(試掘調査)	高知県	東津野村教育委員会
22	新改西部遺跡群	92-35 YNW	香美郡土佐山田町新改	弥生～中世	散布地	328	H 4.11月～H 5.2月	県営圃場整備事業(試掘調査)	高知県	土佐山田町教育委員会
23	竜ヶ道遺跡	92-36 OT	幡多郡大月町竜ヶ道	旧石器	散布地	8	H 4.8月	確認調査	大月町	大月町教育委員会



平成4年度 調査員派遣発掘調査他



伏原大塚古墳



本村遺跡

2. 発掘調査報告書刊行・資料管理事業

平成4年度に行った発掘調査について、当該年度に終了する事業については、整理作業、報告書作成を行い、平成5年度以降への継続事業については、報告書作成に向けて基礎整理作業を実施した。

埋蔵文化財センターに保管中の遺物について、平成4・5年度かけて実施される県立埋蔵文化財センターの建築のため一時搬出し、外部保管を行った。

資料収集としては、図書資料の購入を行い資料の充実を図ったが、経費的制約もあり十分ではなかった。また、各教育委員会、埋蔵文化財センター、大学等からの寄贈図書を受け入れ、整理、収蔵した。なお、県教育委員会において寄贈を受けた図書についても埋蔵文化財センターにおいて保管、管理を行っている。

平成4年度に刊行された県内の報告書は次のとおりである。また、平成3年度作成の当センターパンフレットを増刷、配布し、普及・啓蒙の一助とした。

平成4年度埋蔵文化財センター刊行報告書

シリーズ名	書名	所在地	発行者	執筆・編集者
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第11集	神地遺跡	香美郡香我美町上分字神地	高知県文化財埋蔵文化財センター	松田(県教委)
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第12集	南浦遺跡	高知郡香野町東諸木	高知県文化財埋蔵文化財センター	江口
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第13集	中村・箱毛道路関連埋蔵文化財発掘調査報告書1「ハナノシロ城跡・江ノ古城跡・西ノ谷遺跡」	中村市江ノ村	高知県文化財埋蔵文化財センター	松田・宮我・出原
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第15集	峠ノ上遺跡	高知郡窪川町峠ノ上	高知県文化財埋蔵文化財センター	近森

※高知県埋蔵文化財発掘調査報告書第14集「金地遺跡」については、平成5年度に調査が継続されたため平成5年度刊行の予定。

平成4年度市町村教育委員会刊行報告書

シリーズ名	書名	所在地	発行者	執筆・編集者
香我美町埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集	井原遺跡	香美郡香我美町七分井原	香我美町教育委員会	出原
土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第14集	伏原大塚古墳	香美郡土佐山田町百石町	土佐山田町教育委員会	廣田
土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集	林田シタノテ遺跡	香美郡土佐山田町林田	土佐山田町教育委員会	山崎
本山町埋蔵文化財調査報告書 第5集	堀ノ尾遺跡	長岡郡本山町本山	本山町教育委員会	出原
本山町埋蔵文化財調査報告書 第6集	松ノ木遺跡Ⅱ	長岡郡本山町寺家	本山町教育委員会	前田・吉成
野市町埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集	野市町本村遺跡発掘調査報告書	香美郡野市町本村	野市町教育委員会	坂本
春野町埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集	芳原城跡Ⅱ	吾川郡春野町芳原	春野町教育委員会	松田
上和田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集	奈路遺跡(有楽川(新田遺跡))	幡多郡上和田町奈路・江口	上和田町教育委員会	松田・廣田
大月町埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集	ムクリ山遺跡(付籠電ヶ道遺跡)	幡多郡大月町ムクリ山・電ヶ道	大月町教育委員会	前田・森田
	池田町の遺跡(坂本大平岩跡遺跡調査報告)	吾川郡池田町坂本	池田町教育委員会	山下(県教委)

遺物等発掘調査資料の貸出

番号	借用者	貸出期間	貸出資料
1	韶河洞博物館	平成4年5月	田村遺跡群足跡石膏型・スライド
2	高知県立高知西高等学校	平成4年9月	弥生土器・須恵器・石造丁・勾玉・手づくね土器
3	池田町教育委員会	平成4年10月	縄文・弥生土器・土師器・須恵器・手づくね土器・瓦質土器・青磁・石鏃
4	高知市教育委員会	平成4年11月	柳田遺跡、横植、板材・弥生土器

3. 普及啓蒙事業

本年度における普及啓蒙活動としては、発掘調査に伴う記者発表、現地説明会を中心として、高知県立歴史民俗資料館企画展の共催、各種研修会への講師派遣、パンフレットの配布等を行い、埋蔵文化財保護思想の定着、促進に努めた。

(1) 記者発表・現地説明会等

発掘調査に伴い記者発表、現地説明会を6遺跡で行った。現地説明会における参加人数は50～300名と盛況であり、県内の遺跡と発掘調査について理解を深めることができた。また、中村市のハナノシロ城跡では夏休み子供体験学習、柳田遺跡では小学校の遺跡見学なども行われ、各地域における調査の状況を広く知らせることができた。

平成4年度現地説明会等開催

番号	遺跡名	内容	開催日	会場	主催	参加人数
1	ハナノシロ城跡	夏休み子供体験学習	平成4年8月5日(水)	中村市江ノ村ハナノシロ	中村市教育委員会	50名
2	柳田遺跡	記者発表	平成4年9月21日(月)	高知市朝倉柳田	埋蔵文化財センター	—
3	柳田遺跡	記者発表	平成4年11月19日(木)	高知市朝倉柳田	埋蔵文化財センター	—
4	柳田遺跡	現地説明会	平成4年11月22日(日)	高知市朝倉柳田	埋蔵文化財センター	300名
5	柳田遺跡	朝倉小学校5年生見学	平成4年11月24日(火)	高知市朝倉柳田	埋蔵文化財センター	150名
6	柳田遺跡	朝倉小学校6年生・朝倉第2小学校5・6年生見学	平成4年11月27日(金)	高知市朝倉柳田	埋蔵文化財センター	200名
7	江ノ古城跡・ハナノシロ城跡	記者発表	平成4年11月12日(木)	中村市江ノ村	埋蔵文化財センター	—
8	江ノ古城跡・ハナノシロ城跡	現地説明会	平成4年11月14日(土)	中村市江ノ村	埋蔵文化財センター	80名
9	松ノ木遺跡	記者発表	平成4年11月18日(水)	長岡郡本山町寺家	本山町教育委員会	—
10	松ノ木遺跡	現地説明会	平成4年11月21日(土)	長岡郡本山町寺家	本山町教育委員会	60名
11	岩井口遺跡	記者発表	平成4年11月27日(金)	高岡郡佐川町斗賀野岩井口	佐川町教育委員会	—
12	岩井口遺跡	現地説明会	平成4年11月29日(日)	高岡郡佐川町斗賀野岩井口	佐川町教育委員会	100名
13	芳原城跡	記者発表	平成4年12月14日(月)	吾川郡春野町芳原	春野町教育委員会	—
14	芳原城跡	現地説明会	平成4年12月19日(土)	吾川郡春野町芳原	春野町教育委員会	90名
15	伏原大塚古墳	記者発表	平成5年1月29日(金)	香美郡土佐山田町楠目伏原大塚	土佐山田町教育委員会	—



岩井口遺跡現地説明会



西ノ谷遺跡出土鍬

柳田遺跡及び松ノ木遺跡の現地説明会では、発掘調査、現地説明会等についてのアンケートを行った。その結果は以下のとおりである。現地説明会への参加は初めての人がかなりの割合を占めており、今後も現地説明会の開催を進めていかなければならない。また、現地説明会の開催はやはり新聞を通じて知った割合が最も高く、次いで広報紙等であり、積極的に地元市町村の協力、参加が求められる。埋蔵文化財センターの存在については、設立2年目ではあるがかなり周知されているようである。

アンケート事項		柳田遺跡			松ノ木遺跡		
回答者数		84人			30人		
年齢構成及び性別	年齢	男性	女性	計	男性	女性	計
	10代	2	6	8	0	0	0
	20代	4	1	5	1	0	1
	30代	3	6	9	1	1	2
	40代	8	11	19	3	2	5
	50代	7	7	14	6	1	7
	60代	10	4	14	7	4	11
	70代	9	4	13	2	1	3
	80代	2	0	2	1	0	1
	計	45	39	84	21	9	30
現地説明会参加回数	初めて参加	62			10		
	2回	6			15		
	3回	4			2		
	4回以上	12			3		
	計	84			30		
現地説明会を知った方法	広報紙等	5			13		
	テレビ・ラジオ	16			0		
	新聞	49			10		
	その他	14			7		
	計	84			30		
今後の現地説明会への参加	参加したい	79			29		
	参加したくない	1			0		
	わからない	4			1		
	計	84			30		
埋文センターについて	知っていた	46			20		
	知らない	38			10		
	計	84			30		



松ノ木遺跡



柳田遺跡現地説明会

(2) 展示会等

埋蔵文化財の普及を目的として、平成3年度に高知県立歴史民俗資料館との共済事業として企画展「土佐を掘る」を実施したところであるが、本年度も引き続き第2回の共催企画展として「土佐の戦国時代を掘る」を開催した。戦国時代の土佐にスポットをあて、近年調査事例の多い城跡を中心に居館跡も含め、木製品等の豊富な遺物により展示が行われるとともに講演会も行われ、多数の見学者の参加を得ることができた。

また、文化財保護担当者等研修会への講師派遣、埋蔵文化財センターの見学受入れ、市町村における展示会への指導等を行い広く広報、普及活動を進めた。

○展示会名 「土佐の戦国時代を掘る」

会 場 高知県立歴史民俗資料館

期 間 平成5年1月15日～3月21日

講演会

日 時 平成5年1月23日

演 題 「土佐の中世山城」

講 師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
主任調査員 松田直則

演 題 「発掘された長宗我部氏の城―岡豊城跡―」

講 師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第2係長 森田尚宏

日 時 平成5年2月27日

演 題 「仏教考古学が語る戦国時代の土佐」

講 師 高知県立歴史民俗資料館 学芸主事 岡本桂典



「土佐の戦国時代を掘る」講演会

柳田遺跡を見学して

朝倉第2小学校 石田 あい

「遺跡」ということばは知っていたけれど、実際に見たことがなかったから、今年見ることができて、とてもうれしかった。たくさんの土器、かめ、矢の先、石のものがあつた。

木の皮をむいて、石をひもで結びつけておのを作ったりして、じょうもん時代などの人たちは、今の人たちより、働きものだと思つた。

でも、なぜじょうもんじだいや、やよいじだいの遺跡ということがわかるのか？

なぜ、昔のかがみ川がここにあつたなんてわかるのか？

なぜ、一目見ただけで、何千年前、何時代ということがわかるのか？それが、ふしぎに思う。

でも、なぜか、そのことがわかるような気もする。わからないような気もする。

遺跡を発くつするのは、とても、むずかしそう。

けれど、遺跡を発くつしたりする人たちは、とても、勉強をしたりしてほつているのだと思う。遺跡を発くつするまでには、たくさんの勉強などが必要なんだと思つた。

。講師派遣 「第1回中央地区文化財保護担当者等研修会」

日 時 平成4年6月22日

講 師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 廣田佳久

見 学 高知県立埋蔵文化財センター

。施設見学

日 時 平成4年6月17日

見学者 木山町教育長・文化財保護委員他9名

。展示指導

日 時 平成4年3月～5月

施 設 安芸市立歴史民俗資料館

展 示 第6回特別展「家老屋敷出土品展」

指 導 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 松田直則

4. 研修事業他

本年度も職員の資質向上及び発掘調査・研究の向上を図るために次の研修に参加した。当センター主体の定期的研修は実施されておらず今後の課題であるが、新任の職員を対象としたセンター内の新任研修を平成4年4月～5月に行った。

平成4年度奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研修

参加研修名	期 間	参 加 者
一般研修	平成4年6月30日～8月8日	調査員 山崎正明
中近世遺跡調査課程	平成4年11月5日～11月13日	調査員 近森泰子
有機質遺物応急処理課程	平成5年2月15日～2月20日	調査員 藤方正治

会議等参加

参加会合等	日 時	参 加 者
全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(広島県)	平成4年6月17日～6月20日	山崎事業課長他1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(群馬県)	平成4年9月16日～9月19日	小橋所長他1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議(徳島県)	平成4年10月27日～10月29日	山崎事業課長他1名
第3回四国埋蔵文化財法人実務担当者会(香川県)	平成4年6月25・26日	山本第1係長他2名
第4回四国埋蔵文化財法人実務担当者会(香川県)	平成4年11月4・5日	森田第2係長他1名
全国城郭セミナー	平成4年7月31日～8月3日	調査員 松田直則

IV 本発掘調査概要

ハナノシロ城跡 (92-10 NSM)

1. 所在地 中村市江ノ村字ハナノシロ
2. 立地 丘陵
3. 時代 戦国時代
4. 調査期間 平成4年5月21日～10月16日
5. 調査面積 3,500 m²
6. 担当 松田直則



7. 調査内容 ハナノシロ城跡は、標高35m前後の尾根上先端部に構築された中世の城郭である。この丘陵には、古城という小字が残ることと、尾根上4ヶ所に人工的と考えられる平坦部を確認したことから中世城郭との判断をした。その後開発にかかるということで試掘調査を実施し遺構・遺物の確認を行った結果、ピット及び土師質土器を確認した。調査は、道路幅で削平される部分を対象として行ったため、Ⅰ郭・Ⅱ郭・Ⅲ郭・Ⅳ郭及び東側斜面を実施した。調査の結果、詰にあたるⅠ郭から掘立柱建物跡1棟(2間×2間以上)、覆いを持つ土坑、柵列を検出した。Ⅱ郭では掘立柱建物跡1棟(2間×3間)、Ⅲ郭では掘立柱建物跡1棟と、柵列、土塁状遺構、集石遺構、堅堀3条を検出した。Ⅱ郭の西側には、Ⅳ郭が帯曲輪として構築されており、ここでは柵列を検出した。さらに城跡南東側の谷部では堀切を検出した。今回調査で、東側斜面部を調査できたが、この斜面部では壇上に細い平坦部が人工的に形成されており、防御機能を持たせた遺構と判断し、雛壇状遺構とした。雛壇状遺構は、堀切を望む位置に設けられた細長い平坦地で、戦時には堀切を進入し攻めてくる敵を攻撃する面も持ち合わせていたと考えられる。ハナノシロ城跡は小規模城郭にはいり、本城である江ノ古城の支城と考えられている。しかし立地的な面と堀切の構造や、防御的に優れた遺構の配置がなされている点等検討すべき所がある。城跡の性格は、今後周辺の城跡も含め検討しなければならないが、当時交通手段として利用した中筋川との関連も考えていかなければならない。



ハナノシロ城跡復元想像図



ハナノシロ城跡雛壇状遺構

江ノ古城跡 (92-11 NSE)

1. 所在地 中村市江ノ村字エノジョウ
2. 立地 北西にのびる丘陵の先端部 (標高約 24 m)
3. 時代 戦国時代～近世
4. 調査期間 平成 4 年 5 月 21 日～ 11 月 13 日
5. 調査面積 1,400 m²
6. 担当 曾我貴行



7. 調査内容 江ノ古城跡は、前述のハナノシロ城跡の北東約 400 m の距離にある中世の山城跡である。城跡は中筋川へ向かって北西に延びた標高 55 メートル前後の丘陵頂部を中心に構築されており、最高部の詰をはじめ 4 箇所以上の曲輪が現状でも確認できる。

本年度の調査は、前年度の調査によって遺構の存在が確認された平坦地形部分、そこから城跡の中心部分へ連なる斜面、及びその頂上部の一部を対象としておこなった。いずれも城の縄張の中心部から外れた部分であり、平地との比高差もより低い場所である。

調査の結果、現在確認できる 3 つの平坦地形は、かつて北西方向に延びる尾根上の単一の平坦地形であったものが、近世以降に南・西の 2 方向からの削平によって、3 つの平坦地形に分割されたものであることが判明した。近世以降の削平によって造られた 2 つの平坦部からは、土坑状遺構・ピット状遺構が検出されたが、遺構からの出土遺物は近世以降の陶磁器・瓦等であり、城が廃絶された後に屋敷地等として利用されていたことが窺われる。一方、削平されずに残されたとみられる今一つの平坦部からは、柱穴及びピット状遺構 30 基余りが検出され、4 棟の掘立柱建物が復元できた。遺構からの出土遺物が皆無であり、断定はできないが、城郭の存続時期に機能した建物である可能性が高いものといえる。

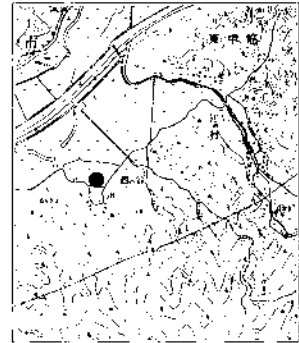
また、斜面部分の調査では城郭に付属する防御施設の検出には至らなかったが、斜面堆積土中から数点の弥生土器が出土した。この弥生土器は、高知県西部で中期末に位置付けられる神西式土器に併行するものと考えられる。原位置を保っているものとは考えられないが、付近に当該期の遺跡が存在したことを物語っている。このように弥生第Ⅳ様式併行期の遺物が山城跡から出土する事例は、県内では南国市岡豊城跡他で知られており、高地性集落遺跡との関連に注意が払われてきた。江ノ古城跡の事例も高地性集落遺跡の存在が濃厚であり、山城と高地性集落との重複例に、今回新たに一例が加わったことになる。今次調査は中世城郭を対象としたものであったが、今後は山城跡を高地性集落という観点から見直すことも必要であろう。



江ノ古城跡航空写真

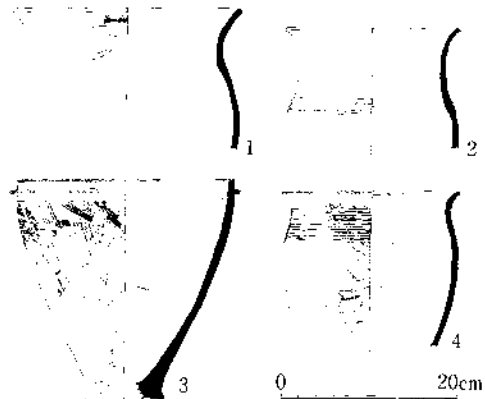
にし なび
西ノ谷遺跡 (92-12 NSN)

1. 所在地 中村市江ノ村西ノ谷
2. 立地 中筋川右岸に展開する低湿地
3. 時代 弥生時代前期末・古墳時代前期
4. 調査期間 平成4年9月24日～12月26日
5. 調査面積 1,400 m²
6. 担当 出原恵三（高知県教育委員会）



7. 調査内容 県西部における弥生時代前期の遺跡は、10個所前後確認されているが本格的な調査が実施されたのは入田遺跡のみ（昭和26年）であり、今次調査は実に46年振りの調査であった。この間県中・東部においては調査の進展に伴い弥生文化受容期の様相が飛躍的に明らかになりつつある中で、西部がいかなる展開を示すのか興味をかりたてられるものがあった。今次調査で出土した前期末の土器は、2基の土坑及び生活面から検出した一括性の高い資料であり量的にも西部の様相を知る上で十分なものである。以下要点を紹介したい。

器種は、甕・壺・鉢からなっており、出土点数と比率は各々184点（91.5%）、13点（6.5%）、4点（2.0%）であり甕が最も多くを占めている。この甕は、図示したようにバリエーションが豊富なことを特徴とする。①と②は、中期に至って確立する土佐型甕の相形となるもので全県的に分布するタイプである。③は、汎西日本的に分布する遠賀川式土器に属する。注目すべきは③のタイプである。刻目突帯を有し深鉢状の形態をとどめる特徴は、大分県に多く分布する下城式土器に類似するものである。ただ大分の下城式土器と異なるところは、当遺跡出土例の中には、口縁部内面に沈線の施されるものが存在することである。いずれにしてもこの種の突帯文土器は今次調査で初めて出土したものであり、県中・東部では全く存在しないタイプである。下城式タイプの成立の背景には、豊後水道をはさんだ地域に分布した縄文晩期の刻目突帯文土器があることは贅言を要しない。従って当地においては、入田B式にその系譜を求めることができる。口縁内面に見られる沈線も入田B式に認められる特徴である。田村遺跡群を中心とする県中・東部においては、前期初頭から遠賀川式土器が展開し、晩期系の刻目突帯文土器は初頭の段階で消滅する。西部においては前期末に至っても根強く突帯文が残っているのは、弥生文化の受容のあり方が、高知の西と東とは異なっていることを示しており、興味深い現象である。



西ノ谷遺跡出土弥生前期末の甕

やなぎだ

柳田遺跡 (92-1 KY)

1. 所在地 高知市朝倉字柳田 162 番地 1 他
2. 立地 旧鏡川流域沖積地
3. 時代 縄文時代後期～古墳時代
4. 調査期間 平成 4 年 8 月 3 日～12 月 28 日
5. 調査面積 4,539 m²
6. 担当 森田尚宏, 藤方正治, 吉成承三, 松村信博,
武吉真裕, 寺川嗣 (高知県教育委員会)



7. 調査内容 柳田遺跡は、昭和 56 年に土佐道路関連用排水路工事に伴い発見された遺跡であり、地表下約 2 m から弥生時代前期の土器や石器などが出土している。平成 4 年 4 月には店舗建設計画に対し、遺跡の範囲、性格等を確認するために試掘調査が行われ、弥生時代前期～中期の土器、石鏃、石包丁、獣骨片、魚骨片などが出土し、炭化物、焼土を含む土坑が検出された。また、弥生時代後期から古墳時代にかけての自然流路も検出され、流路の中から、完形の壺、甕、高杯等が出土した。この試掘調査の結果を受け、同年 8 月から本調査を実施した。

今回の調査で検出された自然流路は、幅約 20 m、深さ約 2 m を測り、調査対象地の中央部からやや南部にかけ、ほぼ東西方向に流れていた。流路の検出面は地表下約 2 m で、上層には黒褐色粘質土の植物堆積層がみられ、自然流木とともに、琴柱、鏃、杵、臼、砧、斧柄、梯子、杭、建築部材等多量の木製品が出土した。これらの木製品は、古墳時代のものであり、質、量ともに県下最大である。また、馬骨等の獣骨片も出土しており、自然植物と同様に当時の環境や社会を研究するための重要な資料を得ることができた。植物堆積層下には、流路形成時の堆積層である砂利層が互層で堆積しており、弥生時代前期末から古墳時代初頭にかけての土器片が多量に出土した。中には、櫛描きによる沈線と鋸歯文を施した彩文土器も出土している。調査対象地西部の流路では、弥生時代の土器片は僅少で、古式土師器の段階の壺・甕・鉢・高杯・小型三種等の土器片が中心である。中には、布留式段階の搬入品も認められる。

以上の事から、自然流路は、方向、堆積状況からみて旧鏡川の流路と考えられ、集落自体は検出されていないが鏡川の自然堤防上に立地している可能性が高く、洪水等により流されるたびに周辺部を移動し、集落を営んでいたと考えられる。



Ⅱ区 遺構検出状態



Ⅰ区 線刻土器出土状態

調査対象地域の南東部分では弥生時代の包含層及び土坑群が検出された。土坑は大小様々であったが、調査区の南端部や南東隅で検出されたものは比較的残存状態が良好であった。

Ⅱ区 SK 1 は調査区の南壁近くで確認された良好な土坑のひとつであった。長径 1.5 m、短径 1.0 m のほぼ楕円形を呈したものであるが、出土遺物の点数は 600 点を越える。この中には多くの壺の破片と共に石包丁も見られた。Ⅱ区 SK 22, 23 とⅣ区 SK からは多くの土器片と共に彩紋土器、魚骨、木の実などが出土している。Ⅱ区 SK 53~55, 57~59 は土坑群の中でも規模が大きく直径 1.5 m~2.5 m のほぼ円形を呈し、深さは 40 cm~60 cm を測る。これらは埋土として炭化物を伴う黒色土層と青灰色粘土層を持っており、互層を成して存在する。

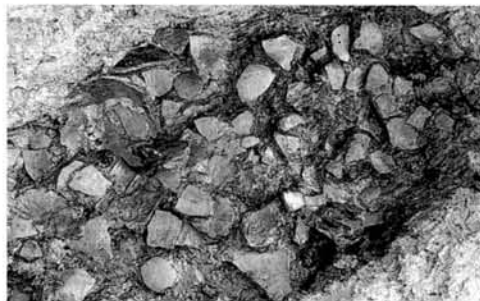
弥生時代の土坑群や包含層から出土した遺物は、土器としては前期末の大篠式から中期前半の永野式に属するもので、朱を施した壺の破片が多く見られた。土器以外ではサヌカイトやチャート製の石鏃・柱状片刃石斧・偏平片刃石斧・磨製石包丁・叩石・砥石・石錐・紡錘車が完形もしくは破片で出土しており、偏平な鉄製品の破片も見られた。

弥生時代の遺構面下と調査区北部からは縄文時代の遺物が出土している。晩期の土器は粗製深鉢の破片であり、内外面に条痕を施し口縁端部に刻み目を持つものが出土している。石器ではサヌカイト製の石鏃や剝片であり、遺構には伴わないが勾玉も見られた。又、調整痕のある木片は溝状に堆積した細砂土の中から自然木と共に出土したものである。晩期遺物包含層の 1 m 下層からは後期前葉の中津式から連なる磨消縄文土器が出土しており、この中にも朱を施した浅鉢の破片が存在した。これらのことから柳田遺跡は断続的にはあるが河川を中心とした広範囲にわたる遺跡と考えられる。

沖積地に立地する遺跡の常で、この遺跡も河川による影響が甚だしい。流路内の複雑な堆積はもとより、比較的安定した堆積状況を示すと思われていた弥生時代の包含層の下にも流路の痕跡を確認するに至り、各時代を通じてここ柳田地域で暮していた人々と彼らを取り巻く環境を知る上で諸科学の力が有効であり、必要不可欠であろう。また、この調査から得られた資料が今後考古学のみでなく各分野で役に立つ事が出来ると考えられる。



Ⅱ区 馬の下顎骨出土状況



Ⅱ区 SK-1 遺物出土状況

かなじ
金地遺跡 (92-14 NK)

1. 所在地 南州市金地北籠西 824 - 1
2. 立地 長岡台地南部の段丘崖下標高 20 ~ 21 m
3. 時代 弥生・平安・鎌倉・室町時代
4. 調査期間 平成 4 年 6 月 22 日 ~ 8 月 15 日
5. 調査面積 約 900 m²
6. 担当 藤方正治・吉成承三



7. 調査内容 今年度の金地遺跡発掘調査は、1990 年 3 月に南州市教委が行った発掘調査区に西隣する地域を対象地として行われた。

検出遺構としては調査区の中央部で竪穴住居跡を 2 棟 (ST 1・2)、北部で掘立柱建物跡と考えられる柱穴列 (SB 1) と溝状遺構 2 条 (SD 1・2)、その他に東部で柱穴群を確認した。遺構は全て黒色の腐植土を埋土とし、拳大以上の円礫を含むもので、特に ST 1・2、SB 1 では顕著であった。

ST 1 は一辺 4.5 m の隅丸方形住居であり、版築によるベッド部を南辺以外に施したものである。主柱穴は 4 個でベッド部上面にも 3 個の柱穴を認めたが、中央ピットは確認できなかった。ST 2 は一辺 5.5 m の規模を持つ隅丸方形住居であり、北西方向と南東方向に突出部を持つものである。前者は住居址の床面より高い出入口様のものであり、後者は土坑状のものである。主柱穴は 4 個を確認し、南側の主柱穴間には小ピットを持つ。住居址からの出土遺物のうち土器は概ねヒビノキⅡ式の範疇に入るもので、甕と鉢を中心として壺・高坏・支脚・甑などである。土器以外では鉄鏃や叩石が出土している。

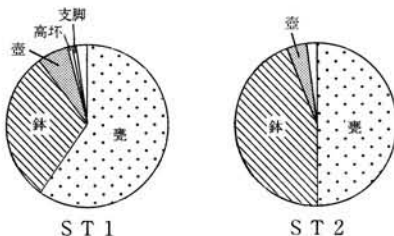
その他の遺構については出土遺物から、SB 1 は上述の竪穴住居二棟と同じ頃に機能していたと考えられ、SD 1 と柱穴群は遺物は僅少であったが中世のものと考えられる。

出土土器の器種	ST 1	ST 2
甕 (%)	59.6	50.0
鉢 (%)	30.7	44.4
壺 (%)	5.8	3.1
高坏 (%)	1.0	0.0
支脚 (%)	1.0	0.0
その他 (%)	1.9	2.5



上：ST 1・ST 2 完掘状況

左：ST 1・ST 2 出土土器構成表とグラフ



みね うえ
峰の上遺跡 (92-21 KM)

1. 所在地 高岡郡窪川町峰の上
2. 立地 五在所の峰南西側山麓の舌状台地
3. 時代 縄文時代・中～近世
4. 調査期間 平成4年6月22日～8月29日
5. 調査面積 1,300 m²
6. 担当 近森泰子



7. 調査内容 峰の上遺跡は窪川町と佐賀町の境界となる峠であり、標高230～240 mの段々畑に位置する。平成3年度の試掘調査により青磁片を含む柱穴群が検出され、中世の掘立柱建物跡を確認するとともに、縄文時代の石鏃も表採されており、山間部に多くみられる縄文と中世の複合遺跡と考えられ、本調査が実施された。遺跡は過去にかなりの削平を受けており、表土、床土下が遺構面であった。表土、床土中には縄文時代の遺物が含まれており、器形は判明しないが縄文土器片が数点、チャート製の縦形石匙1点、やや挟りの深い珪質頁岩製の打製石鏃2点、同石質のスクレーパー1点がみられる。他にサヌカイト、姫島産黒曜石、チャート等の剥片も出土しているが、遺構は削平により消滅しているが、赤ホヤ火山灰を埋土とする土坑1基が検出された。土坑の壁からは姫島産黒曜石の剥片が3点出土しており、赤ホヤ火山灰が自然堆積であれば、峰の上遺跡は縄文時代前期にさかのぼる可能性がある。中～近世では、発掘区に「ムカイヤシキ」の小字が残されており、「長宗我部地検帳」にも記載がみられる。検出された掘立柱建物跡は数回の建替え及び削平を受けており規模等は不明であるが、数棟の建物の存在が考えられる。柱穴中より細蓮弁青磁の出土や、柱穴上の礫の下に青花を埋納する例もあり、15～16世紀と考えられ、土釜も出土している。また、削平のため部分的ではあるが4条の溝が検出されており、15世紀中～後半の自磁皿、備前焼播鉢、土釜、16世紀の青花皿が出土した。性格は不明であるが掘立柱建物跡と同時期と考えられ、屋敷の周囲を巡る溝跡の可能性が強く、用排水路としての機能も考えられる。中世の村落の発掘例は少なく、農村の状態も明らかではないが、輸入陶磁器が全体の9%を占め、備前焼等の搬入品も多く出土することから、峰の上遺跡が高岡郡と幡多郡の境である峠という立地であり、県中央部から西部、北西部への交通の要衝であるという事もあいまって、海上交通や四万十川の河川交通が中世においても盛んに行われていた状態を示している。その後の峰の上遺跡では、近世陶磁器も多く出土しており、近世村落として存続していたことが文献からも確認することができる。



出土遺物

南浦遺跡 (92-5 HM)

1. 所在地 吾川郡春野町東諸木 2040 番地
2. 立地 新川川東側の低地・雀ヶ森城跡の南西側
3. 時代 弥生時代～近世
4. 調査期間 平成4年5月1日～6月19日
5. 調査面積 690 m²
6. 担当 江戸秀輝



7. 調査内容 南浦遺跡は、吾川郡春野町の南東部の東諸木に所在する遺跡で、雀ヶ森城跡の南西側の標高1～3 m前後の低地の水田に立地している。今回の調査は、特別養護老人ホーム・サービスセンター建設に伴う事前の調査ということで、建設予定地内のうち、平成2年度の試掘の結果、調査が必要と考えられる690 m²について実施した。試掘調査の際には、古墳時代初頭の土器と中世初頭の土師質の埴とが出土し、遺構は、土坑、溝、柱穴等が検出されていた。

今回の調査の結果、弥生時代から中世まで、ほぼ同じ場所で若干形を変えながら機能していたとみられる溝と、その溝の枝状に浅い溝が検出された。他に、柱穴や、近世以降と思われる川岸の石垣の跡が検出された。溝については、大きい部分で、幅約4 mで、深さ約1 mで、枝状の溝については、幅約1 m、深さ約40 cmであった。この枝状の溝は4ヶ所検出され、ここからは古墳時代の高坏、埴が、そこに置かれた形で出土している。幹となる溝は、埋土の堆積状況が明らかに幾層かに分類でき、その層によって出土遺物の時代が分かれており、弥生時代に始まり若干堆積し姿を変えながら古墳時代・古代・中世へと水路として機能し続けた様子うかがえる。遺物は、弥生時代の甕、古墳時代の甕・埴・高坏、古代は土師器（坏）を主として、須恵器（埴）、中世も土師器（坏）を主として出土している。川岸跡の遺構周辺からは近世陶磁器が出土している。今回の結果より、集落跡の中心は、今回の調査区より東側の、雀ヶ森城跡のある独立丘陵の斜面下部に広がっていたと考えられる。溝については、この標高約60 mの丘陵を源とした水を利用するために整備して使用されていたと考えられる。また枝状の部分については、祭祀的な性格の可能性も考えられるのではないだろうか。



溝状遺構完掘状態



遺物出土状況

芳原城跡 (92-2 YS)

1. 所在地 吾川郡春野町芳原
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 戦国時代
4. 調査期間 平成4年10月10日～12月18日
5. 調査面積 1,500 m²
6. 担当 松田直則



7. 調査内容 芳原城跡は、昨年度に引き続きニノ段中心に調査を行った。今回の調査で虎口遺構・土坑・柵列等を検出し、詰・ニノ段の全貌が明らかになった。ここでは簡単に、前回の検出遺構も含めての概要を紹介することにする。詰の南側では、虎口を一部検出した。虎口の全貌は、来年度の調査を待たなければならないが城門の建物は確認している。虎口から西側にかけては、柵列と溝、さらに溝から西側は総柱の掘立柱建物跡2棟、隣接して北側には同じく掘立柱建物跡3棟を検出した。この建物に伴い周囲に雨落ち溝を検出した。ニノ段の北東部は土坑や城跡の中で最も大きい掘立柱建物（2間×7間）を検出した。以上検出遺構の概略であるが、本城跡は城内の様相が長宗我部地検帳のホノギで推測できる良好な城である。地検帳

によると、「詰ノタン」「北蔵ノタン」「政所ノタン」「弓場ノタン」と記載され、面積も示されている。検地が行われた時点では、城内は荒れ果てた土地で城としての機能は考えられない。しかし城跡が機能していた時点の、土地の小字が伝承され、それが記載されたと考えることができる。「詰ノタン」は、詰で間違いなく、次に記載されている「北蔵ノタン」と「政所ノタン」をニノ段と想定して見た。出土遺物から、15世紀後半から16世紀前半代に機能したと考えられる城跡で、守護領国体制が崩壊し、戦国時代に突入した時期に機能している。今回の調査で、検出遺構と、文献面から、城内の曲輪の機能分化まで追究して考えることができた。さらに来年度の調査で、虎口遺構の全貌が解明できれば、土佐の中世城郭を考えていく上で重要な資料を提供できるものと思う。



芳原城跡縄張り図 (池田誠作図)

ふしはらおほつか こじん
伏原大塚古墳 (92-6 YO)

1. 所在地 香美郡土佐山田町楠目字伏原大塚 678
2. 立地 物部川右岸の標高約 50 m の長岡台地上
3. 時代 古墳時代
4. 調査期間 平成 4 年 7 月 27 日～平成 5 年 1 月 30 日
5. 調査面積 300 m²
6. 担当 廣田佳久・竹村三菜



7. 調査内容 本年度の調査は昨年度に引続き、2年日に当たる。本年度は国庫補助事業として、昨年度前方後方墳ではないかと想定した墳形の立証とその規模の確認に主目的をおき、3ヶ所を調査対象地に選定し、順次調査を実施した。

第1次調査区は、古墳の北東端部と想定した箇所、2本のトレンチを設定し調査した結果、周溝のコーナー部を確認することができた。さらに、周溝は西側が2条であったのに対し東側は1条であることが判明した。このことにより、古墳西側にのみ周溝を2条配していたことになる。このことは埴輪の樹立にも関係するようで、出土量が西側に比べ東側は極端に少ない。因みに古墳西側に樹立していた埴輪数は、周溝に埋没していた状況並びに復元個体数から類推すると20個体前後ではなかったかと考えられる。

第2次調査区は国道195号線を挟んだ南側で、前方部東側の周溝の存在が推定された部分であったが、調査の結果、幅2mの溝跡を検出したが深さが30cmと浅く、かつ近世の土坑によってその大半が掘削されており、周溝と断定するには至らなかった。そのため第3次調査区が古墳の全貌確認のために重要な調査区となった。

第3次調査区は、前方部と後方部のくびれ部ではないかと想定した箇所である。南に屈曲して延びるとみられていた周溝は、そのまま東へ続いており、前方部が存在するかのように現地形で東西にくびれが残存するのは後世の所産と言わざるを得ないであろう。このことにより当古墳は一辺34mの大形方墳であったことになり、周溝を含めたその規模は南北38m、東西43mに及ぶことが判明した。これまで四国最大規模を誇った香川県角塚古墳（一辺34m）と同規模ないしそれを上回ることになる。ただし、時期的にはかなりの隔りがあり関連性はなさそうである。また、第3次調査区では主体部の排水施設とみられる石組の暗渠が検出された。この暗渠は、周溝に排水する形に設置され、幅約3mで主体部に向かって延びる土坑（石室構築の際の作業坑か）の中央部に造られていた。暗渠の基底面は約2°の傾斜角をもっており、最初は地山の砂礫層となっていたが、土坑の底面に至った段階で平たい河原石を敷いて傾斜をつけていた。

以上、今年度の調査概要について記したが、次ぎに昨年度の成果並びに昭和52年に土佐山田町史編纂事業の一環として実施された主体部の調査結果をも参考に当古墳について考えてみ

たい。

まず、築造時期についてみてみよう。昭和52年の主体部の調査では多数の副葬品が床面から出土している。その大半は須恵器で、4時期の変遷をおうことができ、最も古いものは陶邑のTK-10に併行もしくはやや古い要素のあるもので、時的には6世紀第2四半期後半に位置付けることができるのではなかろうか。また、出土した埴輪もほぼその時期に該当することができよう。続く時期の須恵器は、6世紀後半、6世紀末～7世紀初めそして7世紀後半に該当することができ得るものである。このことから、当古墳では3度の追葬が行われたとみることもでき、また、当初竪穴式石室と報告されていた主体部が横穴式石室であったとみた方が適切のようである。ただし、前回は5日という短期間の調査であり、今回は主体部の調査を行っておらず、結論付けるには資料不足で、今後の調査に期待される。なお、現状では主体部上部ならびに盛土の大半は削平されている。

次に、県下初の円筒埴輪についてみてみよう。これらの円筒埴輪は、器高60～70cm、口径28～35cmを計り、口縁部の形態によって、A類（ラッパ状に開くもの）、B類（直立するもの）の2種類に分類でき、A類はさらにC種ヨコハケの施された範囲と口縁部の開き具合によってさらに2種4類に細分できる。また、A類の口縁部外面にはハケ状工具による斜め方向の刺突文が施されている。これら埴輪は、須恵器の制作技法とほぼ同じであり、かつ焼成が須恵器と全く遜色ないこと、横断面が楕円形を呈するものも存在するが円形を指向していることからなどから須恵器系円筒埴輪と位置付けることが可能で、他に類例がみられないことから土佐型埴輪とも言い得るものかもしれない。

最後に、墳形についてみると、一辺34mを測る大形方墳ということになり、周溝を含めた規模は南北38m、東西43mとなる。県下では、宿毛市高岡山1号墳が方墳であった可能性を指摘されている以外皆無で、県下でその変遷を掴むことはできず、全国に目を転じなければならぬであろう。現在確認されている一辺30m以上を測る大形方墳は全国で約60基で、時的、地理的、規模的にみて当古墳に関連する可能性のある古墳として大阪府塔塚古墳、奈良県榊山古墳、島根県石屋古墳などの古墳の名を挙げることもできなくはないが、推測の域を



伏原大塚古墳出土の円筒埴輪

脱し得ず、今後の研究に期待されよう。ただし、先述のような埴輪の存在、数多くの副葬品そして四国最大規模の大形方墳を築造し得た者は少なくとも物部川水系延いては高知平野を総括していた首長であったことにはほぼ間違いのないであろうし、中央との密接な繋がりがなしには存在し得なかったのではなかろうか。

ほんむら
本村遺跡 (92-9 NH)

1. 所在地 香美郡野市町本村
2. 立地 小丘陵上
3. 時代 弥生時代
4. 調査期間 平成4年5月11日～7月31日
5. 調査面積 3,000 m²
6. 担当 坂本憲昭



7. 調査内容 本村遺跡は、昨年度圃上整備事業に先立つ試掘調査が一部本発掘調査を兼ねて行なわれ、弥生時代中期の丘陵上に営まれた集落の存在が明らかになった。しかし当該事業によって集落の立地する小丘陵は大幅な削平を受けるため遺跡の現状での保存は困難になった。この様な情勢を受けて文化財保護部局である野市町教育委員会が主体となって記録保存のための発掘調査を平成5年度に行い、遺跡の全体像を明らかにすることになった。

今回の調査では、昨年度に検出された竪穴住居址2棟の他に、竪穴住居址3棟と土抗3基、溝状遺構、丘陵上の遺跡では瀬戸内地域を中心に検出例の多い段状遺構と思われる遺構S Xが高知県では初めて検出された。遺物は丘陵上に立地するため、包含層が後世における削平のため一部しか残存しておらず層位ごとの取り上げが行なえず量的にも比較的少量の出土であった。しかし遺構の埋土中からはS Xを中心に多量の遺物が出土した。遺物の時期は弥生時代中期後半から後期初頭にかけてと考えられる。本県において当時期の土器は、複合遺跡の田村遺跡群から出土しているが、まとめて遺構中から出土したのは本村遺跡が本県で初めてであり、当該時期の土器の様相を明らかにする上で貴重な資料を提供することになった。特に当期において盛行する凹線文の土器がセットで出土しており、瀬戸内地域で出土する凹線文を有する器種の殆どが出土することが解った。凹線文以外の在地の流れと考えられる土器も出土しており両者が同時期に併存していたことが窺える。また土器以外でも石鏃、石包丁をはじめとする土器も多く出土している。その他では鉄鏃3点とガラス製勾玉、硬玉製管玉が出土している。

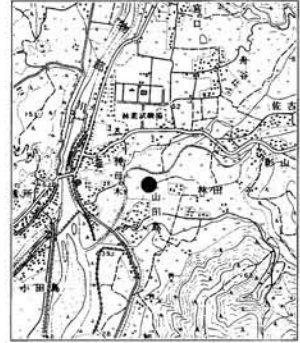
今回の調査で弥生前期に沖積平野の微高地に営まれた母村的集落が弥生時代中期後半の丘陵上など比較的高い所に上がる時期の、5棟から6棟程度の比較的小規模な集落の姿が明らかになるとともに凹線文土器の多量の出土、ガラス製勾玉の出土などによって瀬戸内地域などとの交流についても今後検討する必要が生じてきたといえよう。



本村遺跡出土土器

はやしだ
林田シタノチ遺跡 (92-20 YG)

1. 所在地 香美郡土佐山田町林田字シタノチ
2. 立地 物部川左岸の洪積台地上
3. 時代 縄文時代・弥生時代・古代・中世
4. 調査期間 平成4年9月17日～11月9日
5. 調査面積 2,350 m²
6. 担当 山崎正明・門脇隆・中山泰弘(土佐山田町教委)



7. 調査内容 林田シタノチ遺跡は、標高約55mの洪積台地上に立地しており、南方には弥生時代中期の標式遺跡(龍河洞穴遺跡)の存在が知られている三宝山を望むことができる。土佐山田町の洪積台地上には弥生時代後期から古墳時代にかけての中心的集落遺跡が存在しており、隣接する林田遺跡もこの時期を代表する遺跡である。又、本遺跡より上流の香北町美良布遺跡からは縄文時代の良好な資料も得られている。このような立地条件のもとで発掘成果が期待されていたが、全体的に遺物の量は少なかった。調査Ⅰ区・Ⅱ区からは縄文・弥生時代の資料を得ることができた。その中心となるのは、調査Ⅰ区での遺構出土の縄文土器であり、県下でも希少な資料である。P8は89×64cmの楕円形のプランを有し、47cmの深さをもつ。この埋土中層より縄文時代後期初頭の中津式の前段階に併行する土器が2点重なるように出土した。共に体部上部に、太くて深い沈線による文様帯を施している。高知県中央部における縄文後期編年を組む上で指標となる土器である。P11から出土した土器片の外面には縄文原体RLが施されている。P1とP9からは縄文時代晩期の土器片160点が出土した。浅鉢と深鉢に分かれ、粗製の深鉢は体部に貝殻条痕が施され、口縁端部にはヘラ状原体又は貝殻腹縁で刻目が施されている。調査Ⅱ区の包含層からは、無刻目突帯文土器・刻目突帯文土器も見られた。他にサヌカイト製で凹基式の石鏃が1点見られた。これら縄文時代の資料は、土佐山田町の物部川の流域・市街地周辺からは初めての出土である。

調査Ⅲ区は、歴史的に耕作地として長く利用されてきた土地であり、検出された遺構も残りが悪く出土した遺物も摩耗が激しかった。

遺構としては溝状のものが検出され、その時代は古代と推定されるが性格は不明である。遺物は、古くは縄文時代後期の浅鉢片や弥生時代と思われる小形のみ状磨製石斧が出土し、加えて緑釉陶器片をはじめとする古代から近世にかけての土器細片が出土した。



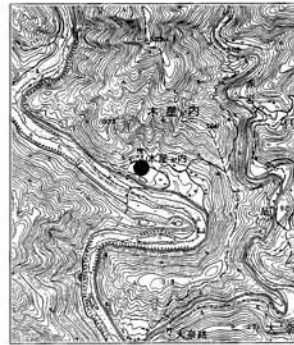
出土縄文土器



出土縄文土器

こやがうち
木屋ヶ内遺跡 (92-22 TK)

1. 所在地 幡多郡大正町木屋ヶ内 229～243
2. 立地 梶原川下流中位段丘
3. 時代 縄文時代～中世
4. 調査期間 平成4年9月10日～9月30日
5. 調査面積 125 m²
6. 担当 前田光雄



7. 調査内容 平成4年8月に町営圃場整備工事中に大型の磨製石斧，石鏃及び縄文時代前期と考えられる土器片が出土し，町の方に届け出がなされ，急速発掘調査が実施されることになった。遺跡は四万十川中流域の支流梶原川の中位段丘の緩傾斜地に立地する。

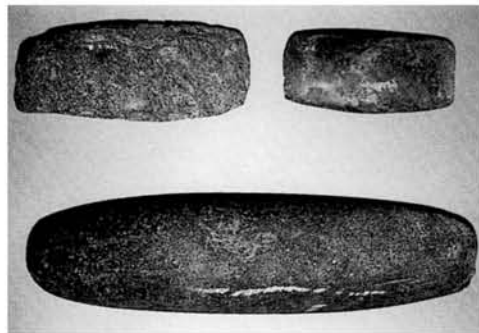
遺構は縄文前期と考えられる石組みを1基検出した他は中世に含まれるものばかりであった。遺物としては，縄文時代早期の大型楕円押型文，前期の羽鳥下層式等の土器類が約200点余り出土しているものの，完形に近いものは出土しておらず，破片で占められる。しかし，当該期としては県内では有数のものである。

石器としては長さ約24 cm，幅6 cm，厚さ3 cmの大型の磨製石斧が1点出土しており，裏面を特に研ぎ出し断面はカマボコ形をし，両頭に刃を作出する。他にも小型の磨製石斧3点が出土しており，一遺跡から出土例としては県下では初めてである。また，石鏃が約80点と多量に出土しており，十和村十川駄場崎遺跡，土佐山田町銅古屋遺跡，土佐清水市唐人駄場遺跡に次ぐ量である。石質は十川駄場崎遺跡と同様に珪質頁岩製で大部分が占められ，重さ0.2 g程の軽量のものとは7.5 gと重い尖頭状の2種類が見られる。他に石器としては石匙，敲石等，コア・フレイク類は特に多量に出土している。石材は珪質頁岩以外にサヌカイト，姫島産黒曜石が僅かに搬入されている。

中世としては，15世紀後半に青磁，白磁，柱穴跡からは地鎮に使われたと考えられる古銭「永楽通宝」等が出土し，傾斜地を段切りにした平坦部で柱穴等が検出できた。また炉跡らしき焼土跡を2か所検出しており，山間部に於ける中世の生活様相の一端を知ることができた。



調査区



出土石斧

いわいぐち
岩井口遺跡 (92-24 SI)

1. 所在地 高岡郡佐川町斗賀野字岩井口
2. 立地 伏尾川左岸標高約 90 m の低位段丘上
3. 時代 弥生時代・中世
4. 調査期間 平成 4 年 10 月 12 日～ 12 月 12 日
5. 調査面積 3,600 m²
6. 担当 廣田佳久・山崎正明・竹村三菜
7. 調査内容 岩井口遺跡は、斗賀野盆地の北西端部に位置し、立地的には斗賀野盆地を北流する伏尾川左岸に形成された低位段丘上にあり、岩井口の谷部両側に所在する。

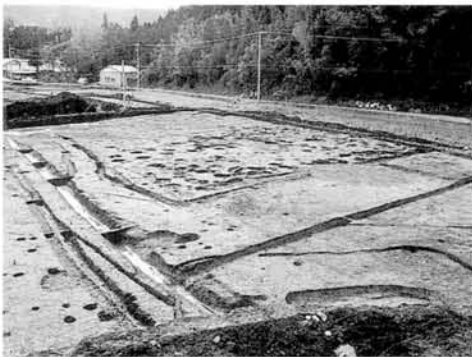


当遺跡は、平成 2 年度に実施した斗賀野地区県営圃場整備事業に伴う事前の試掘調査の際確認された遺跡で、本年度工事区域となることから本調査を実施した。

確認された遺構は、弥生時代と中世に分けることができ、中でも 14・15 世紀の館跡が確認され注目される。

まず、弥生時代では終末期に属する竪穴住居跡と高床式倉庫ではないかとみられる建物跡各 1 棟を検出した。竪穴住居跡は、平面形が方形で一辺約 4 m を測り、住居から 2～3 m 離れたところに排水の為とみられる幅 30 cm の溝を巡らしていた。このような類例は県下には見当たらない。また、この周溝からは叩き目の明瞭に残る甕 1 点と小形の鉢 2 点が出土している。

中世では、南北朝から室町時代にかけて約 200 年間存続したとみられる在地領主の館跡並びに周辺の建物跡を検出した。館は周囲に 2 条の溝を巡らし、その規模は東西約 50 m、南北約 45 m で、2 条の溝の間は約 8 m あり、この間に土塁を築いていたのではないかとみられる。館内では梁間 2～3 間、桁行 3～5 間程度の掘立柱建物を 10 棟ほど配していたことが窺え、母屋とみられる中心部の建物は数度の建て替えが行われていた。館の外では梁間 1～2 間、桁行 1～4 間程度の建物が目立ち、当時は領主を中心にその周りに家来、さらにその外に農民を配したものとみられる。このことは出土遺物からも推察される。



館跡完掘状態



土師質土器出土状態

まつき 松ノ木遺跡 (92-27 MMⅢ)

1. 所在地 長岡郡本山町寺家
2. 立地 吉野川上流中位段丘
3. 時代 縄文時代～近世
4. 調査期間 平成4年10月13日～平成5年3月19日
5. 調査面積 550 m²
6. 担当 前田光雄・吉成承三



7. 調査内容 本年度で3度目の調査となり、県下初の縄文時代後期の住居跡1軒を検出した。住居跡内からは高知県西部の宿毛貝塚を標式とする後期前半の2本沈線による磨消縄文の宿毛式土器が数点出土した。住居跡は径3 m 弱の小判形の小型のもので、住居跡内からは建築資材と考えられる炭化材が多量に出土しており、またサヌカイト製石鏃4点と剥片が出土している。

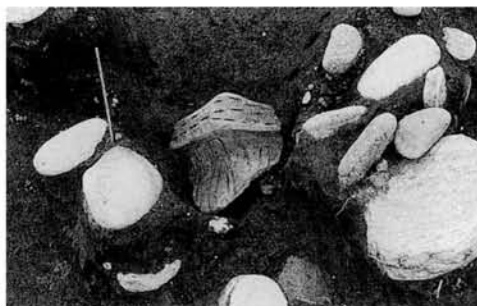
遺構としては他に土坑7基、性格不明の集石、ピット約50基余りを検出した。時期的には縄文時代前期から晩期、また弥生時代のものも含まれる。中でも縄文時代前期と考えられる円形土坑内からサヌカイト製石鏃6点と共にマダイと考えられる魚骨が出土している。

遺構外からは縄文時代早期と考えられる土器片及び前期から晩期に至るまでの土器が出土しており、中でも県下では珍しく前期、中期に比較的纏まりが認められ、大部分が瀬戸内の影響を強く受けたものであり、羽島下層式から大歳山式までが確認されている。石器としては30～60 gの石錘が群を抜いて多量に出土している。サヌカイト製石鏃、敲石、挟入石器等が認められ、石斧類は4点と少ない。また、石材は搬入品としてサヌカイト以外に姫島産黒曜石が出土している。石製品には滑石製及び泥質片岩製の塊状耳飾りが各1点出土している。また縄文時代後期と考えられる部分的に赤彩を施したミニチュア土器が遺構外から出土している。

今回の調査に於いて、宿毛式期の住居跡を検出したものの、平成2年度の調査で「土器捨て場」から「松ノ木式」土器が多量に出土しているが、今回の調査でも松ノ木式期の集落の把握までには至らなかった。今後の調査に於いて、松ノ木式期の集落を始め他の時期の集落の全容解明に期待される。



住居跡検出状態



縄文土器出土状態

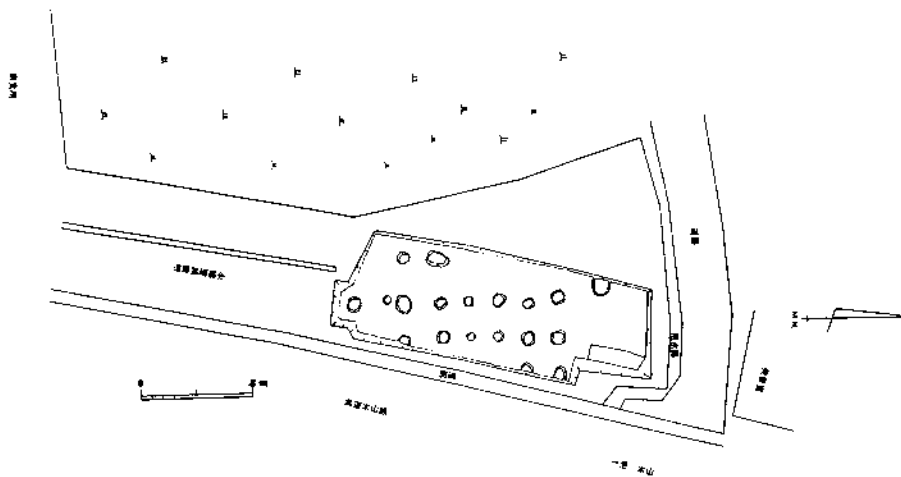
じんぜん じはいじ
秦泉寺廃寺跡 (92-16 KJ)

1. 所在地 高知市中秦泉寺字鍛冶屋ヶ内
2. 立地 金谷川右岸の扇状地
3. 時代 白鳳時代～平安時代
4. 調査期間 平成4年6月23日～7月13日
5. 調査面積 160 m²
6. 担当 吉成承三・山本哲也



7. 調査内容 昨年度に続き、県道高知本山線道路改良工事に伴う調査を行った。当寺院跡は、白鳳期後半の創建。伽藍配置等の詳細は不明であるが、高知市役所秦支所北側の畑地及び県道西側の宅地・畑地にかけて白鳳～奈良・平安時代の土器片・瓦類等が散布し、これまでの発掘調査により基壇状遺構・掘立柱建物跡・大溝・柵列・堀跡・瓦溜・柱穴・ピット等が検出されている。白鳳～奈良・平安時代にかけて、土佐郡の中心的な主要寺院であったと考えられ、創建に際しては秦氏の関与が推察される寺院跡である。

今回の調査は、県道の西側拡張部（歩道）を対象にしたもので、調査の結果、掘立柱建物跡・上坑1基を検出し、土器（須恵器・土師器）・瓦類が出土した。建物跡の性格については明らかではないが、付属施設の一部と考えられる。遺構の検出状況から、県道東側にかけての遺構形成が推測される。なお、建物跡の掘形は円形で柱心間は1.30～1.50 mを測り、廻廊的な要素も含まれる。



掘立柱建物跡

仁ノ遺跡 (92-7 HN)

1. 所在地 吾川郡春野町仁ノ
2. 立地 仁淀川河口左岸の沖積平野標高2～4 m
3. 時代 弥生時代～古墳時代
4. 調査期間 平成4年5月12日・8月17日～29日
5. 調査面積 600 m²
6. 担当 前田光雄・山下英雄・山崎正明・松村信博



7. 調査内容 仁ノ遺跡は、平成2年度の遺跡分布調査によって確認された遺跡である。今回の調査は、民間の砂利採取事業に伴う緊急発掘調査だが、事業者が遺跡の存在を確認せず工事を行ったため、調査に着手した時には既に遺跡の一部を残すのみとなっていた。

当遺跡は、耕作度の下に7 m以上の厚い砂・砂利の堆積があり、地表下1.5～2 mの砂層で土器・木製品など大量の遺物を確認した。杭・^{かい}權状木製品など木器の保存状態も良く、石棒・叩き石等石器類とあわせて当時の生活の一端を知ることができる。この包含層の上下ともに砂層であり、調査した範囲では明確な遺構は検出できなかった。包含層中から出土した土器は、ほとんどが弥生後期末～古墳時代前期初頭にかけてのものである。在地の土器以外に近畿地方・瀬戸内海沿岸など各地の土器が入ってきており、(庄内式・布留式・東阿波型・西瀬戸内系等)仁ノ遺跡が、当時の海上交通の中継地として、重要な役割を担っていたことが推察される。同時期の搬入土器は、北東約2 kmに位置する西分増井遺跡からも出土しており、当遺跡との関連が予想される。

また、同じ層中に弥生前期前半の土器(田村編年前期Ⅱ・西見当Ⅰ式)が100点余り混入していた。流れ込みとみられるが、この時期の土器は、高知県では田村遺跡群など数例しか報告されておらず、貴重な発見となった。



土器出土状況



木器品出土状況

かわぐちしんがい

川口新階遺跡 (92-3 TS)

1. 所在地 幡多郡十和村川口新階
2. 立地 四万十川支流の長沢川右岸の河岸段丘上
3. 時代 縄文時代
4. 調査期間 平成4年4月20日～4月24日
5. 調査面積 104 m²
6. 担当 廣田佳久

7. 調査内容 当遺跡は、かつて石鏃が表採されたことによって発見された遺跡で、隣接して川口ホリキ遺跡、対岸には十川駄場崎遺跡が所在する。今回の調査は、十川小学校プール建設に伴うもので、予定地約600 m²が対象となった。調査の結果、縄文早期の包含層と考えることもできる土層も認められたが、白色頁岩の剝片が僅かに出土する程度で、今回の調査区は当遺跡の縁辺部であると判断された。



遺跡遠景

かこ たに

箆ノ谷遺跡 (92-8 KK)

1. 所在地 高知市横浜箆ノ谷 1199 他
2. 立地 小規模谷平野
3. 時代 中世
4. 調査期間 平成4年5月11日・12日
5. 調査面積 約100 m²
6. 担当 松田知彦 (高知県教育委員会)

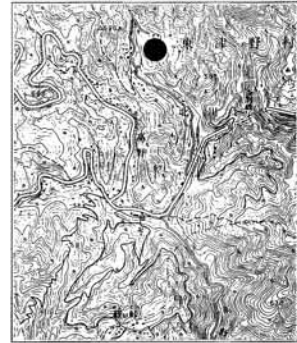
7. 調査内容 今回の調査では、遺構は確認できなかった。遺物は白磁片 (11～12世紀) 及び土師器小片のみである。このような小規模の谷平野にも輸入陶磁器が流通していることは注目に値する。なお、調査区外縁部の耕作土中よりチャート製石鏃1点が表採されており、付近に縄文時代の遺跡が存在する可能性がある。



調査区全景

たかの
高野遺跡 (92-13 HT)

1. 所在地 高岡郡東津野村北川 1889 番地
2. 立地 谷川に西面した河岸段丘上
3. 時代 縄文時代・中世
4. 調査期間 平成4年10月26日～28日
5. 調査面積 8 m²
6. 担当 山下英雄 (高知県教育委員会)
7. 調査内容 今回の調査では、青磁片が1点とチャートの石材が2点出土したのみであった。当遺跡からは石鏃が2点表採されており、縄文時代前期の遺跡と考えられていたがその手がかりはつかめなかった。しかし、高野遺跡が広々とした河岸段丘上に立地しているため、その可能性を否定するものではない。今後の調査により、遺跡の性格が明確にされることを期待したい。



遺跡遠景

さいはた おおがみ
西畑・大上遺跡 (92-15 HS)

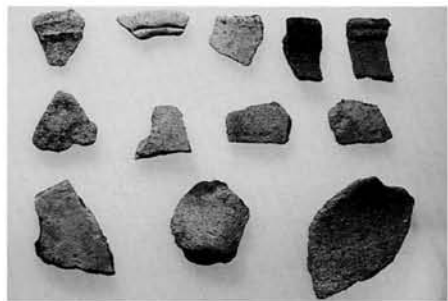
1. 所在地 吾川郡春野町西畑・岐
2. 立地 仁淀川河口近く東岸の自然堤防上
3. 時代 弥生時代～中世
4. 調査期間 平成4年5月25日～27日
平成4年9月7日～10月21日
5. 調査面積 900 m²
6. 担当 近森泰子・江戸秀輝
7. 調査内容 西畑遺跡ではシルトと砂利が互層をなしており、遺物・遺構は検出されなかった。大上遺跡では青灰色粘土層中から多量の遺物が出土した。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、和泉型瓦器碗、洛西産緑釉陶器、白磁、備前焼、加工木、土錘等であり、仁淀川の支流である岐川周辺に集落の存在が考えられる。
时期的には12～13世紀が中心であり、仁淀川河口における海上・河川交易の活発さを想像させ、長期間におよぶ遺跡の存在が明らかとなった。



大上遺跡近景

おくたに
奥谷遺跡 (92-17 HO)

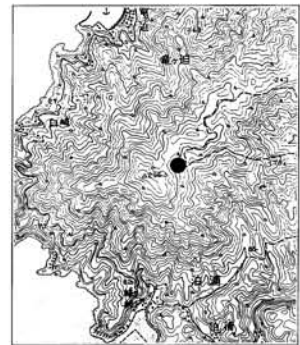
1. 所在地 吾川郡春野町弘岡上 2610
2. 立地 仁淀川下流域左岸の谷平野
3. 時代 弥生時代
4. 調査期間 平成4年7月20日・21日
5. 調査面積 約35 m²
6. 担当 山下英雄 (高知県教育委員会)
7. 調査内容 今回の調査は、町道建設によって影響を受ける奥谷遺跡について、時代・性格及び範囲を確認する目的で行った。調査場所が遺跡の周辺部であるとみられるため、遺構は検出されずまた、検出された遺物も流れ込みと考えられる。しかし、出土した土器はすべて弥生時代中期のものであり、奥谷遺跡の時期を特定できたことは大きな成果である。今後の調査により、遺跡の本体部が明らかにされることを期待したい。



出土土器群

ムクリ山遺跡 (92-18 OM)

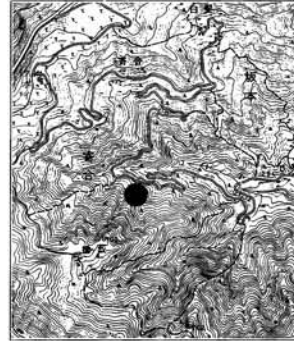
1. 所在地 幡多郡大月町竜ヶ迫
2. 立地 丘陵尾根
3. 時代 縄文時代～弥生時代
4. 調査期間 平成4年8月3日～14日
5. 調査面積 500 m²
6. 担当 前田光雄
7. 調査内容 弥生時代中期の高地性集落として昭和48年に調査を実施し、住居跡を1軒検出している。遺跡は海拔260mの丘陵の尾根部に位置し、宿毛湾、遙か遠くに豊後水道を臨む。今回の調査は大月町が単独で学術調査を実施したものであり、前回の住居跡部分を中心として周辺域の調査を実施した。広範囲に互り土器片等は出土したものの、纏まった遺物は出土せず、また遺構は検出されなかった。



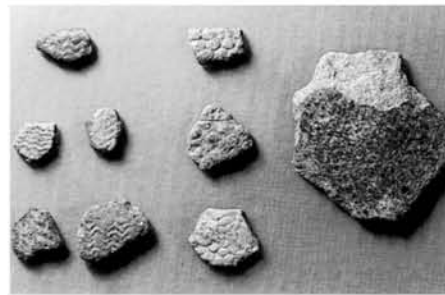
調査区近景

坂本大平岩陰遺跡 (92-19 IS)

1. 所在地 吾川郡池川町坂本字大平
2. 立地 小郷川右岸山腹の大岩の陰
3. 時代 縄文時代～中世
4. 調査期間 平成4年8月31日～同年9月9日
5. 調査面積 8 m²
6. 担当 松田知彦・山下英雄 (高知県教育委員会)
7. 調査内容 当遺跡の発掘調査は今回が始



めてであった。遺構は検出できなかったが、土器類・石器類は縄文時代早期～弥生時代後期それに中世も出土している。縄文時代早期の黄島式押形文土器が出土しており、楕円文と山形文の2種類が確認できる。山形文土器5点のうち2点は表裏共に山形文が施されている。また、表に山形文、裏に楕円文が施されたものも出土している。石器は石鏃7点と打製の石包丁が出土している。岩陰付近の環境は稲作に適したものではないが、石包丁は弥生人が持ち込んだものと考えられる。その他、姫島産黒曜石の剥片が出土していることは、当時の交易圏を考慮するうえで注目すべきことである。当遺跡はキャンプサイトとして使用されたものであろうが、今後の調査によりさらに遺跡の時代及び性格が明確にされることを期待する。



出土した押形文土器群

ミズクレ遺跡 (92-23 TM)

1. 所在地 土佐清水市清水旭町字ミズクレ
2. 立地 海岸段丘上標高 20～40 m
3. 時代 縄文時代
4. 調査期間 平成4年9月17日・18日
5. 調査面積 35 m²
6. 担当 山本哲也・松村信博
7. 調査内容 今までに縄文時代の石鏃・打



製石斧・石器剥片の表採は報告されているが、詳細は明らかでなかった。今回の調査は、土佐清水都市計画事業に伴う事前の確認調査である。8ヶ所のトレンチを設定し調査を行った。叩石とチャート・頁岩の剥片が数点出土したが、時期を特定できる遺物は確認できなかった。後世に削平を受けたためか、遺構の形成も認められない。



ミズクレ遺跡遠景

ひがしぎ

東崎遺跡 (92-26 NHⅢ)

1. 所在地 南国市東崎
2. 立地 長岡台地
3. 時代 弥生時代～古墳時代
4. 調査期間 平成4年10月12日
5. 調査面積 20 m²
6. 担当 前田光雄・松田知彦 (高知県教育委員会)
7. 調査内容 本遺跡は弥生時代から古墳時代にかけての大規模集落と考えられ、数度の調査が実施されており、県下では2例目の方形周溝墓等も検出されている。今回の試掘調査は、高知農業高等学校内に庭球コート造成に伴うものであり、2か所の試掘坑の調査を実施した結果、遺構は検出されなかったものの、良好な状態で遺物包含層が確かめられた。遺跡は直接破壊される恐れはなく、現状保存を講じている。

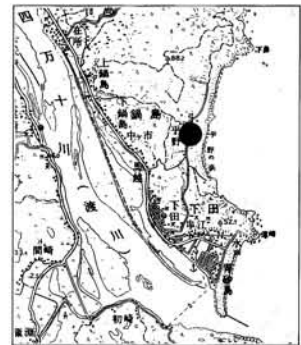


試掘トレンチ

ひらの

平野遺跡 (92-28 HJ)

1. 所在地 中村市鍋島平野字茶園
2. 立地 海岸段丘上
3. 時代 縄文時代
4. 調査期間 平成4年10月26日～29日
5. 調査面積 約60 m²
6. 担当 松田知彦 (高知県教育委員会)
7. 調査内容 本遺跡は、周辺では双海遺跡に次ぐ規模を誇る縄文時代の遺跡である。今回の調査は、市道建設に伴う試掘調査であるが、遺構は確認できなかった。また、遺物についてもすべて表土層よりの出土である。遺物は黒曜石及びチャートの剥片と縄文土器の細片である。しかし、今回の調査のみで平野遺跡の全体像は把握しきれしていない。地形的にみても遺跡の本体は南側だと考えられ、黒曜石の剥片及び石鏃が多数表採できることから、今後本遺跡の保護のため十分な注意が払われるべきである。



発掘作業風景

ハザマダ遺跡 (92-29 HZ)

1. 所在地 南国市植田
2. 立地 国分川北西部沖積平野
3. 時代 弥生時代後期～古代
4. 調査期間 平成4年11月18日～平成5年1月11日
5. 調査面積 113 m²
6. 担当 門脇隆

7. 調査内容 今回の調査は高知県が行う新改西部地区県営圃場整備事業によって影響を受ける土佐山田町との隣接地域について、本遺跡の時代、性格及び範囲等の確認を目的として実施した。この調査において、南北に長い調査対象地域のほぼ中央にあたる3箇所のトレンチより遺構“溝”が検出され、その中から弥生後期から平安時代にかけての土器片が十数点出土した。



トレンチに検出された溝跡

おかまえ 岡の前遺跡 (92-31 MO)

1. 所在地 幡多郡三原村芳井岡の前
2. 立地 下ノ加江川左岸の河岸段丘上
3. 時代 縄文時代
4. 調査期間 平成4年11月16日～11月21日
5. 調査面積 138 m²
6. 担当 寺川嗣

7. 調査内容 今回の試掘は、三原地区県営圃場整備事業に伴う事前の調査である。調査対象区域に34本のトレンチ(2m×2m)を設定し、調査を実施した。当地域では、昭和61年に行われた遺跡詳細分布調査により石鏃等が表採されており今回の調査が期待されたが、近代以前の遺構は検出できなかった。

また、遺物については、近・現代染付及び陶磁器片が数点出土したのみであった。

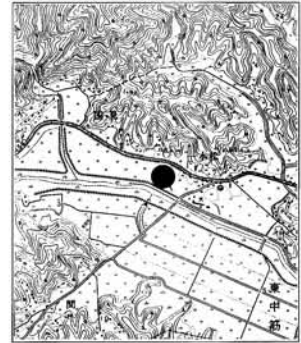


岡の前遺跡遠景

くにみ
国見遺跡 (92-33 KN)

1. 所在地 中村市国見字ダバ
2. 立地 中筋川左岸に接する低丘陵上（標高約7m）
3. 時代 縄文時代～中世
4. 調査期間 平成5年1月13日～1月27日
5. 調査面積 238 m²
6. 担当 曾我貴行

7. 調査内容 今次調査は中村市立東中筋中学校建設に先立つ確認調査である。2×2mの試掘坑50箇所について調査を実施し、13箇所の試掘坑で遺構・遺物が確認された。遺構では縄文・弥生時代のピット状遺構・溝状遺構が、遺物では縄文土器・弥生土器・土師器（古墳時代）など約300点が、それぞれ認められた。平成5年度に本格調査実施の予定。



出土土器

はつたんぽ
八反坪遺跡 (92-37 MH)

1. 所在地 土佐郡土佐町田井八反坪
2. 立地 吉野川上流の右岸に形成された沖積地
3. 時代 縄文時代晩期，弥生時代中・後期
4. 調査期間 平成5年3月8日・9日
5. 調査面積 68 m²
6. 担当 出原恵三

7. 調査内容 八反坪遺跡は、高知県の縄文時代晩期前半の土器型式である八反坪式土器の標識遺跡であるが、これまで本格的な調査がなされておらず、今日では正確な土器出土地点や遺跡の範囲を知ることができなくなっている。今次調査は、八反坪に隣接する田岡病院が浄化槽を新設するについて、確認の為に実施したものである。調査区の2箇所を試掘グリットを設定したが、共に地表1m前後の客土があり、以下旧耕土と粘土・シルトが互層に体積しており地表下2mの地点で縄文晩期・弥生中期の土器細片を数点検出したのみであり、生活面や遺物包含層を確認することはできなかった。



八反坪遺跡発掘風景

もりきたしやめん
バーガ森北斜面遺跡 (92-33 IB)

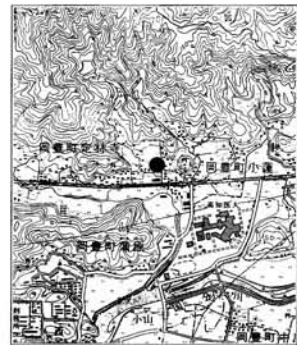
1. 所在地 吾川郡伊野町バーガ森字奥名
2. 立地 標高約 40～70 m の丘陵北斜面
3. 時代 弥生時代
4. 調査期間 平成 4 年 1 月 18 日～2 月 4 日
5. 調査面積 200 m²
6. 担当 寺川嗣・松村信博
7. 調査内容 当遺跡は弥生中期の高地性集落として著名であり、昭和 49・52 年には発掘調査も行われている。今回の調査は、伊野南地区基幹農道整備事業に伴う事前の試掘調査である。農道予定地の西端部のみの調査だったが、トレンチを 17 箇所設定した結果、尾根上のトレンチ 7 箇所より弥生土器・石器が出土した。遺構は土坑を一基確認したのみだったが、周辺への遺構の拡がり予想される。



調査区遠景

さかえだ
栄工田遺跡 (92-34 SE)

1. 所在地 南国市岡豊町定林寺字栄工田・宮ノ前他
2. 立地 山地に続く丘陵の間の谷とその周辺の平地
3. 時代 縄文時代後期～近世
4. 調査期間 平成 5 年 2 月 1 日～3 月 11 日
5. 調査面積 200 m²
6. 担当 江戸秀輝
7. 調査内容 今回の調査は、四国横断自動車道建設の関連工事に伴う事前の試掘調査である。2×5 m のトレンチ 20 ヶ所を調査した結果、柱穴、溝、土坑等の遺構及び谷川の跡等の自然遺構を検出した。遺物については、縄文後期～晩期の土器片、多量の弥生時代の土器、また両時代の石器、古墳時代～近世までの遺物の出土があり、長い時代にわたる集落の存在が考えられる。



溝状遺構・遺物出土状況

ひさつぐ
久次遺跡カリヤガノ地区 (92-30 YHK)

1. 所在地 香美郡土佐山田町久次カリヤガノ
2. 立地 平地
3. 時代 弥生時代～室町時代
4. 調査期間 平成4年11月21日～12月28日
5. 調査面積 2,000 m²
6. 担当 中山泰弘 (土佐山田町教育委員会)



7. 調査内容 新改西部地区県営圃場整備事業に伴う試掘調査により遺構・遺物等が確認されたことにより平成4年度工事施工予定地内を緊急に発掘調査を実施した。調査の結果、弥生時代後期終末の住居跡7棟、古墳時代の住居跡5棟、土坑墓1基、奈良時代の掘立柱建物跡、中世の溝跡6条、ピット多数が検出された。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、砥石、鉄鏃等が出土した。



遺跡全景航空写真



出土土器

しんがいせいぶ
新改西部遺跡群 (92-35 YHG)

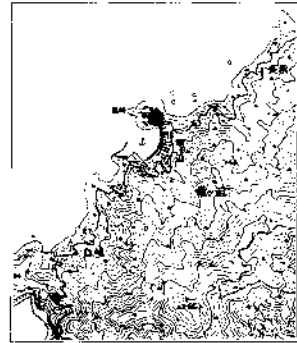
1. 所在地 香美郡土佐山田町久次
2. 立地 国分川北岸の段丘面
3. 時代 弥生～室町時代
4. 調査期間 平成4年10月16日～平成5年2月3日
5. 調査面積 332 m²
6. 担当 中山泰弘 (土佐山田町教育委員会)



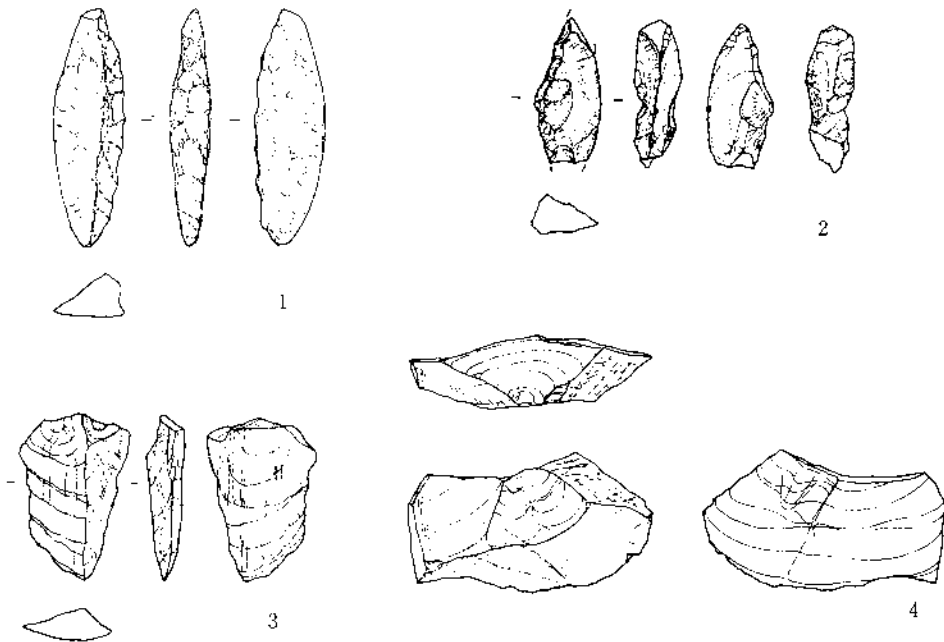
7. 調査内容 新改西部地区県営圃場整備事業に伴う事前の試掘調査として実施された。調査は、圃場整備事業対象地について2×2mグリッドを設定し行われた。その結果、北部、南部、中央部付近において遺物包含層が認められ、堅穴住居跡、溝跡、ピット等の遺構も確認され、部分的な範囲ではあるが、全体的には広範囲にわたる遺跡であることが判明した。なお、今回の試掘結果に基づき、平成4年度に圃場整備事業施行予定地については、久次遺跡として緊急発掘調査を実施した。

たつがさこ
竜ヶ迫遺跡 (92-36 OT)

1. 所在地 幡多郡大月町竜ヶ迫
2. 立地 海岸に突出した丘陵斜面
3. 時代 旧石器時代
4. 調査期間 平成4年8月11日・12日
5. 調査面積 8㎡
6. 担当 山本哲也・森田尚宏



7. 調査内容 ムクリ山遺跡の確認調査を実施中に、竜ヶ迫地区の竹田氏の採集遺物の中にサヌカイト製ナイフ形石器が存在することが判明し、本県初のサヌカイト製ナイフ形石器であることからその採集地点を確認するために調査が行われた。現地は頂部の天満宮の石段下方の参道であり、かなりの急傾斜面である。状況からみると流れ込みとも考えられたが、堆積状況を確認するために参道及び両側に4ヶ所の小トレンチを設定した。遺物は参道部のトレンチから出土しており、表土下の灰褐色粘質土中から頁岩製の小形ナイフ形石器1点と剥片類であった。サヌカイトは確認されず、ナイフ形石器の形態が違ふことからみれば、採集されたナイフ形石器と今回確認されたナイフ形石器との間には時期差があると考えられる。



出土遺物 (1・2 ナイフ形石器 3 剥片 4 石核) S=1/2

V 条例・規則・規程等

高知県条例・規則

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成3年3月20日条例第3号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(設置)

第1条 埋蔵文化財を発掘し、保存し、及び公開することにより、埋蔵文化財に対する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）を南国市に設置する。

(管理の委託)

第2条 教育委員会は、センターの管理に関する業務を財団法人高知県文化財団に委託することができる。

(委任)

第3条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成3年4月1日から施行する。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成3年3月26日教育委員会規則第5号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例（平成3年高知県条例第3号）第3条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）の管理について、必要な事項を定めるものとする。

(センターの利用)

第2条 センターを利用しようとする者（第4条において「利用者」という。）は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料（第4条において「埋蔵文化財等」という。）の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

(利用時間)

第3条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 教育委員会は、前項の規定にかかわらず、特に必要と認めるときは、同項の利用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 利用者は次に掲げる事項を守らなければならない。

- 1 センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- 2 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 3 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(休所日)

第5条 センターの休所日は、次に掲げるとおりとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休所日を設けることができる。

- 1 日曜日及び土曜日
- 2 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 3 1月2日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

(委任)

第6条 この規則に定めるもののほか、センターの管理及び運営に必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成4年7月18日から施行する。

財団法人高知県文化財団規程

3. 財団法人高知県文化財団組織規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、財団法人高知県文化財団（以下「財団」という。）の組織に関し必要な事項を定め、財団事務の適正かつ能率的な執行を図ることを目的とする。

(組織)

第2条 財団に事務局を置く。

- 2 事務局に次の表に掲げる機関を置き、その内部組織として課を置く。
- 3 理事長は、必要があると認めるときは、課に班又は係を置くことができる。

機 関	課 名
総務部	総 務 課
歴史民俗資料館	事 業 課
	学 芸 課
埋蔵文化財センター	事 業 課
坂本龍馬記念館	

第3章 事務分掌

(埋蔵文化財センターの分掌事務)

第7条 埋蔵文化財センターの分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1)受託した高知県立埋蔵文化財センターの管理運営に関する事。
- (2)所の子算及び決算に関する事。
- (3)所の文書及び公印に関する事。
- (4)所の職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5)埋蔵文化財の調査研究に関する事。
- (6)埋蔵文化財の整理保存に関する事。

附 則

- 1 この規程は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 財団法人高知県文化財団組織規程（平成2年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成3年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年9月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年11月15日から施行する。

高知県埋蔵文化財センター年報 2

1992年度

発行日 平成5年3月31日

編集・発行 財団法人高知県文化財団
埋蔵文化財センター

印刷 西村勝写堂